

AstraZeneca PLC 2012年第4四半期・通年業績

2013年1月31日ロンドン発

通年の財務業績は、複数の製品の独占権の失効を反映しています。恒常為替レート（CER）ベースで、売上は15%減少し、中核1株当たり利益（EPS）は9%減少しました。

Brilinta/Brilique、*シムビコート*、*フェソロデックス*、*Onglyza* および *イレッサ*は引き続き成長し、糖尿病アライアンスのフランチャイズはAmylin社のポートフォリオの追加と欧州における*Forxiga*の承認によって強化されました。

当社は、2013年3月21日にCapital Markets Dayを開催し、事業戦略に関する最新情報を提供します。

通年売上はCERベースで15%減の279億7,300万ドル

- 複数の製品の独占権の失効およびアストラテックとAptiumの売却が売上減少の主な原因でした。
- シムビコート、フェソロデックス、*Onglyza*、*イレッサ*、*Brilinta/Brilique*およびセロクエルXRの合計売上によってCERベースで6億ドルの売上増を達成しました。

通年中核1株当たり利益（EPS）はCERベースで9%減の6.41ドル

- 中核EPSは、2012年、2件の税関連の案件により4億7,000万ドル（0.37ドル）のプラス影響を受けました。ネキシウム®のOTC販売権の売却益が中核EPSに0.16ドル貢献しました。

報告ベースの通年EPSはCERベースで29%減の4.99ドルでした。この減少は、2011年にアストラテックの売却により1株当たり1.08ドルのプラス影響があったことと、2012年の事業再構築経費が2011年よりも高かったことによります。

第4四半期の売上は15%減；中核EPSは、研究開発における無形資産評価減の大幅な減少を含む営業経費の減少とスウェーデンの法人税率の引き下げが実施されたことに伴う2億3,000万ドルの繰延税金残高へのプラスの調整により、CERベースで1%増でした。

取締役会は1株あたり1.90ドルの第2回中間配当を発表し、累進的配当政策に沿って、通年の配当は2.80ドルとなりました。

当社は2013年の売上はCERベースで1桁台半ばから後半のパーセンテージで減少すると予想しています。また、中核営業費用が2012年比微増するため、中核EPSは売上の減少率よりも大幅に減少すると予想しています。

ファイナンシャルサマリー

グループ	第4四半期 2012 100万ドル	第4四半期 2011 100万ドル	前年 同期比 %	CER %	通年 2012 100万ドル	通年 2011 100万ドル	前年 同期比 %	CER %
売上高	7,282	8,656	-16	-15	27,973	33,591	-17	-15
報告ベース								
営業利益	1,964	2,167	-9	-6	8,148	12,795	-36	-34
税引前利益	1,854	2,052	-10	-5	7,718	12,367	-38	-35
1株当たり利益	\$1.22	\$1.16	+5	+10	\$4.99	\$7.33	-32	-29
中核*								
営業利益	2,532	2,990	-15	-13	10,430	13,167	-21	-18
税引前利益	2,422	2,875	-16	-13	10,000	12,739	-22	-19
1株当たり利益	\$1.56	\$1.61	-3	+1	\$6.41	\$7.28	-12	-9

* 当社経営陣は当社の業績を理解していただく上で有益であると考えられるGAAP（一般会計原則）とは異なる補足的な指標として中核財務指標も報告しています。2013年の財務ガイダンスはこの指標に基づいています。中核財務指標の定義および中核と報告ベースの財務指標の調整については2および4ページをご覧ください。2013年第1四半期から使用される中核財務指標の定義へのグループの変更に関する最新情報は8ページをご覧ください。

最高経営責任者パスカル・ソリオの業績に関するコメント：「当社の 2012 年の実績は大幅な特許失効と世界的に厳しい市場状況の時期を反映しています。当社は難題に直面していますが、私は、成長を回復し、強固な財務規律を有する企業との評判を維持しつつサイエンスにおけるリーダーシップを達成するための鍵となるアストラゼネカの基本的な強さに大いに期待しています。当社は、患者さんと株主に対して当社特有の長期的な価値を創造する製品、サイエンス、パイプラインおよび人材を有していることを確信しています。新経営陣とともに 3 月の Capital Markets Day においてこれらのテーマについて詳細をお話することを楽しみにしています。」

営業およびファイナンシャルレビュー

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート (CER) ベースおよび中核ベースで示されています。当社の報告ベースの財務情報に加えて提示するこうした指標はGAAP (一般会計原則) とは異なる指標であり、当社グループの進行中のビジネスの基礎的な財務実績やそれに加えてビジネス上の重要な要素をよりよく理解していただく上で有益だと当社経営陣は考えています。中核ベースの財務指標では、当社のグローバルな事業再構築プログラムの費用および引当金、2007年のメディミュン社買収に関連する重要な無形資産の償却および評価減、米国でのメルク社との提携打ち切りに関する取決めやその他の特殊項目といったいくつかの重要項目を除外するよう調整されています。これら調整の性質に関する詳細は、2011年度のアニュアルレポートの84ページおよび米国証券取引委員会 (SEC) への提出書類20-Fに示されています。

第 4 四半期

1 株当たり利益を除く財務上の数字は、すべて 100 万ドル単位。加重平均株数も 100 万単位。

	2012 年 報告ベース	事業 再構築 費用	メルク社および メディミュン 社償却	無形資産 評価減	法務関連 引当金	2012 年 中核ベース	2011 年 中核ベース	前年 同期比 (%)	CER (%)
売上高	7,282	-	-	-	-	7,282	8,656	(16)	(15)
売上原価	(1,398)	61	-	-	-	(1,337)	(1,576)		
売上総利益	5,884	61	-	-	-	5,945	7,080	(16)	(15)
売上比%	80.8%					81.6%	81.8%	-0.2	-
物流費	(79)	-	-	-	-	(79)	(85)	(7)	(7)
売上比%	1.1%					1.1%	1.0%	-0.1	-0.1
研究開発費	(1,320)	94	-	-	-	(1,226)	(1,692)	(28)	(28)
売上比%	18.1%					16.8%	19.5%	+2.7	+3.1
販売・一般管理 費	(2,669)	243	150	-	6	(2,270)	(2,546)	(11)	(10)
売上比%	36.6%					31.2%	29.5%	-1.7	-1.6
その他収入	148	-	14	-	-	162	233	(30)	(30)
売上比%	2.0%					2.2%	2.7%	-0.5	-0.5
営業利益	1,964	398	164*	-	6	2,532	2,990	(15)	(13)
売上比%	27.0%					34.7%	34.5%	+0.2	+0.9
正味金融費用	(110)	-	-	-	-	(110)	(115)		
税引前利益	1,854	398	164	-	6	2,422	2,875	(16)	(13)
税金	(320)	(116)	(26)*	-	(4)	(466)	(766)		
税引後利益	1,534	282	138	-	2	1,956	2,109	(7)	(4)
少数株主持分	(13)	-	-	-	-	(13)	(7)		
純利益	1,521	282	138	-	2	1,943	2,102	(8)	(4)
加重平均株式数	1,246	1,246	1,246	1,246	1,246	1,246	1,312		
1 株当たり利益	1.22	0.23	0.11	-	-	1.56	1.61	(3)	1

* 1 億 6,400 万ドルの償却調整費のうち 9,000 万ドルは、関連する税調整 2,600 万ドルを伴うメディミュン社関係の償却調整費です。メルク社関係の償却費は 7,400 万ドルで、これには税調整は発生しません。

第 4 四半期の売上は、CER ベースで 15%減、実質ベースは為替レート動向のマイナス影響を受けて 16%減でした。主要ブランド数製品の独占権失効により、売上が減少しました。

米国の第 4 四半期の売上は、セロクエル IR の独占権失効により 23%減でした。セロクエル IR を除くポートフォリオの売上は、Amylin 社の糖尿病ポートフォリオ買収による 8,400 万ドルの売上を含むと、3.7%増でした。米国の医療制度改革実施による第 4 四半期売上へのマイナス影響は、約 2 億 5,000 万ドルでした。

米国・西ヨーロッパ以外の地域の第 4 四半期の売上は 9%減でした。西ヨーロッパの売上は 16%減でした。4 製品（セロクエル IR、Atacand、ネキシウム、Merrem）の独占権失効が、売上減少分の 85%を占めました。米国・西ヨーロッパ以外の地域の既成市場の売上は、主にカナダで後発品との競合によりクレストールの売上が 84%減少したことが響き、14%減でした。新興市場の売上は、中国、サウジアラビア、ロシアでの成長により 6%増でした。

第 4 四半期中核営業総利益は、売上の減少に伴い 15%減でした。中核営業総利益は売上の 81.6%を占め、前年と変わりませんでした。製品ミックスが営業総利益にマイナスに影響したものの、Aptium の連結解消とメルク社との第 2 オプション（注記 6 を参照）の修正で売上原価が減少したことによるプラスの影響を受けました。

予想通り、第 4 四半期における中核販売・一般管理費は、前年同期比 10%減少したものの、この通年で最大でした。主に先進国における厳格な営業コスト管理と事業再構築による営業・販売費の減少は、新興国での販売促進に対する投資額の増加により一部相殺されました。中核販売・一般管理費には、当期における 4,700 万ドルの糖尿病アライアンスの拡大により発生した無形資産償却費も含まれます。米国の医療制度改革実施により課された消費税は、当期の販売・一般管理費の 2.6%に相当しました。

中核その他収入は前年同期比 30%減の 1 億 6,200 万ドルで、これには多くの少額な一時的収入が含まれています。ロイヤリティ収入も前年と比べ減少しました。

第 4 四半期中核研究開発費控除前営業利益は 18%減の 37 億 5,800 万ドルでした。中核研究開発費控除前営業利益率は売上の 51.5%で、前年同期比 2.2%減でした。これは、売上に占める中核販売・一般管理費の割合が高く、中核その他収入の割合が低かったためです。

第 4 四半期中核研究開発費は 28%減でした。無形資産評価減は前年同期の 4 億 6,700 万ドルに対し、3,900 万ドルでした。この評価減を除くと、第 4 四半期中核研究開発費は約 3%減少しました。これは、事業再構築によるコスト削減やその他のコスト削減が、増額したライセンス契約、プロジェクトの獲得または提携に要した費用を上回ったためです。

第 4 四半期中核営業利益は 13%減の 25 億 3,200 万ドルで、無形資産評価減の減少に伴って研究開発費も減少したため、売上よりも減少は小幅に留まりました。中核営業利益率は売上の 34.7%で、前年同期比 0.9 ポイント増でした。

中核営業利益が二桁減であったのと対照的に、第 4 四半期中核 1 株当たり利益は 1%増の 1.56 ドルでした。2012 年第 4 四半期中核 EPS は、当期中にスウェーデンの法人税率の引き下げ（26.3%から 22%）が実施されたことに伴う 2 億 3,000 万ドル（0.18 ドル）の繰延税金残高の調整からのプラス影響を受けました。また、2012 年の中核 EPS も、自己株式の買戻しにより発行済み株式数が減少したことによるプラスの影響を受けました。

第 4 四半期の報告ベースの営業利益は 6%減の 19 億 6,400 万ドル、報告ベースの EPS は 10%増の 1.22 ドルでした。個別の中核指標と比較して増加率が高かったのは、2012 年度の事業再構築費用（3 億 9,800 万ドル）が、昨年度（6 億 5,900 万ドル）より減少したことによるものです。

通年

1株当たり利益を除く財務上の数字は、すべて100万ドル単位。加重平均株数も100万単位。

	2012年 報告ベース	事業 再構築 費用	メルク社および メディムーン 社償却	無形 資産 評価減	法務関連 引当金	2012年 中核ベース	2011年 中核ベース	前年 同期比 %	CER %
売上高	27,973	-	-	-	-	27,973	33,591	(17)	(15)
売上原価	(5,393)	136	-	-	-	(5,257)	(5,972)		
売上総利益	22,580	136	-	-	-	22,716	27,619	(18)	(16)
売上比%	80.7%					81.2%	82.2%	-1.0	-0.9
物流費	(320)	-	-	-	-	(320)	(346)	(8)	(5)
売上比%	1.1%					1.2%	1.0%	-0.2	-0.2
研究開発費	(5,243)	791	-	-	-	(4,452)	(5,033)	(12)	(11)
売上比%	18.8%					15.9%	15.0%	-0.9	-0.7
販売・一般管理費	(9,839)	631	534	-	133	(8,541)	(9,918)	(14)	(12)
売上比%	35.2%					30.5%	29.5%	-1.0	-0.9
その他収入	970	-	57	-	-	1,027	845	22	24
売上比%	3.5%					3.7%	2.5%	+1.2	+1.1
営業利益	8,148	1,558	591*	-	133**	10,430	13,167	(21)	(18)
売上比%	29.1%					37.3%	39.2%	-1.9	-1.6
正味金融費用	(430)	-	-	-	-	(430)	(428)		
税引前利益	7,718	1,558	591	-	133	10,000	12,739	(22)	(19)
税金	(1,391)	(375)	(87)*	-	(32)	(1,885)	(2,797)		
税引後利益	6,327	1,183	504	-	101	8,115	9,942	(18)	(16)
少数株主持分	(30)	-	-	-	-	(30)	(33)		
純利益	6,297	1,183	504	-	101	8,085	9,909	(18)	(16)
加重平均株式数	1,261	1,261	1,261	1,261	1,261	1,261	1,361		
1株当たり利益	4.99	0.94	0.40	-	0.08	6.41	7.28	(12)	(9)

* 5億9,100万ドルの償却調整費のうちの3億6,200万ドルは、関連する税調整8,700万ドルを伴うメディムーン社関係の償却調整費です。メルク社関係の償却費は2億2,900万ドルで、これには税調整は発生しません。

** 6,100万ドルの買収関連費が含まれています。

通年の売上は CER ベースで 15%減、実質ベースは為替レート動向のマイナス影響を受けて 17%減でした。減少幅の 13%超（約 45 億ドル）は、主要ブランド数製品（特にセロクエル IR）の独占権の失効によるものです。アストラテックおよび Aptium 売却による売上減が前年からの減少分の約 1.7%を占めています。米国の売上は 21%減、米国・西ヨーロッパ以外の地域の売上は 11%減でした。

中核営業総利益率は売上の 81.2%を占め、2011 年第 1 四半期の PDL BioPharma 社との和解による利益を受けた前年同期より、0.9 ポイント減少しました。2012 年通年では、アストラテックおよび Aptium 売却による利益を製品ミックスのマイナス影響が上回りました。

中核販売・一般管理費は、事業再構築によるコスト削減、継続的かつ厳格なコスト管理が、糖尿病アライアンスの拡大により発生した償却費と新興国での販売促進に対する投資額の増加と一部相殺され、前年比 12%減となりました。米国の医療制度改革実施により課された消費税は、通年の販売・一般管理費の 2.8%に相当しました。

通年の中核その他収入は 24%増で、これには 2012 年第 3 四半期に計上されたネキシウムの OTC 販売権売却による収入 2 億 5,000 万ドルが反映されています。

中核研究開発費控除前営業利益は 16%減の 148 億 8,200 万ドルでした。中核研究開発費控除前営業利益率は売上の 53.2%で、0.9 ポイント減でした。売上に占める中核売上原価の増加と中核販売・一般管理費の増加が中核その他収入の増加を上回ったためです。

通年の中核研究開発費は 11%減でした。これは、ライセンス契約、プロジェクトの獲得または提携費用が増加

したものの、事業再構築の効果や、前年比で大幅に減少した 2012 年度の無形資産評価減がこれらを上回ったためです。

通年の中核営業利益は 18%減の 104 億 3,000 万ドルでした。中核営業利益率は 1.6 ポイント減で売上の 37.3% でした。売上に占める中核営業総利益率の減少と中核研究開発費と販売・一般管理費の増加によるマイナスの影響が通年の中核その他収入の増加を上回りました。

中核 EPS は前年同期比 9%減の 6.41 ドルでしたが、正味自己株式買戻しと税率の低下により、中核営業利益よりも減少は小幅に留まりました。

報告ベースの通年の営業利益は 34%減の 81 億 4,800 万ドル、報告ベースの EPS は 29%減の 4.99 ドルでした。中核財務指標の低下と比較して減少幅が大きかったのは、2011 年にはアストラテックの売却による 14 億 8,300 万ドルの報告ベースのその他収入の利益（中核指標からは除外）があったことと、前年同期（16 億 9,800 万ドル）と比較して、2012 年の事業再構築費用及び償却費用（21 億 4,900 万ドル）が増加したことによるものです。

生産性の向上

2007 年以降、アストラゼネカは、長期的な競争力の強化に向けて、事業の再構築・再編に取り組んできました。

第 1 段階は 2009 年に完了しました。

研究開発部門の大規模な変更プログラムを伴う第 2 段階は、2010 年に開始されました。この段階の再構築作業は 2011 年に完了し、プログラム費用の合計は 21 億ドルでした。合計 9,000 人程度の人員削減も完了しました。2014 年末までに合計 19 億ドルの年間コスト削減が達成できる見込みであり、そのうち 15 億ドルは 2012 年末までにすでに達成されました。

2012 年 2 月に事業再構築の第 3 段階が発表されました。この段階は、サプライチェーン、販売・一般管理、および研究開発の分野にわたる取り組みで構成され、プログラムの総費用は、推定 21 億ドル（キャッシュ費用で約 17 億ドル）です。そのうち、2 億 6,100 万ドルを 2011 年度第 4 四半期に計上し、第 3 段階に関連した事業再構築費用として、15 億 5,800 万ドルを 2012 年度に計上しました。残り約 3 億ドルの費用の大部分は 2013 年度に計上します。現在までに、影響を受けると考えられる推定 7,300 人のうち、6,300 人程度に関わる活動が完了しています。この段階が完了すると、2014 年末までに年間 16 億ドルのコスト削減が達成できる見込みであり、そのうち 3 億 5,000 万ドルは 2012 年末までにすでに達成されました。

これらの事業再構築プログラムで目指すコスト削減を達成しつつあり、新興市場の営業活動のインフラやバイオ医薬品の研究能力の拡充など、将来の成長および価値に適切に投資するための資金を確保することができます。

金融収益・費用

通年の正味金融費用は、2011 年の 4 億 2,800 万ドルに対し、4 億 3,000 万ドルでした（前年同期 1 億 1,500 万ドルに対し、当期 1 億 1,000 万ドル）。長期債務と金融派生商品の公正価値損失は年間 1,000 万ドルで、2011 年通年の公正価値利得は 400 万ドルでした。これは、グループの年金制度にかかる正味金融費用の低減により一部相殺されました。

税金

第 4 四半期の実効税率は 17.3%（前年同期 27.2%）で、通年では 18.0%（前年同期 19.0%）でした。実効税率は、第 4 四半期中に、2013 年 1 月 1 日よりスウェーデンでの法人税率が 26.3% から 22% へ引き下げられたことで発生した 2 億 3,000 万ドルの繰延税金残高の調整と、以前に開示した第 2 四半期中の移転価格問題が良好に解決した後の過去数四半期に関する 2 億 4,000 万ドルの調整の利益を受けました。これらの利益を除外すると、通年の報告ベースの実効税率は 24.1% でした。この税率は営業利益に対する中核課税対象調整に適用されており、通年の中核実効税率は 18.9% でした。

2013 年のグループの実効税率は約 23% になると予測しています。

前年の実効税率は、アストラテック売却に伴う非課税収入、2002 年から 2014 年末までの期間のアストラゼネカの米国での事業に関する移転価格処理および関連評価額案件に関して、英国の歳入関税庁と米国の国税庁が事前価格確認の条件に合意したとする 2011 年 3 月の発表に伴う調整により 5 億 2,000 万ドルのプラス影響を受けま

した。これらのプラス影響を除外すると、昨年の報告ベースの実効税率は26.4%でした。

キャッシュフロー

2012年12月31日までの年度に営業活動から生じたキャッシュフローは、前年同期間の78億2,100万ドルに対して、69億4,800万ドルでした。納税額の低下により、営業利益の減少が一部相殺されました。

投資活動による通年の正味キャッシュ流出は、2011年通年の20億2,200万ドルに対し、18億5,900万ドルでした。2012年度中に行われた社外提携によるキャッシュ流出は、Ardea社の買収およびAmylin社の無形資産の取得により、51億ドルでした。これは短期投資の売却による36億ドルの正味キャッシュ流入により一部相殺されました。2011年度には、アストラテック売却による18億ドルのキャッシュ流入と短期投資による27億ドルのキャッシュ流出が含まれています。

株主への正味現金配分は、自己株式取得正味額22億600万ドルおよび2011年第2回中間配当と2012年第1回中間配当36億6,500万ドルによる58億7,100万ドルでした。

資本と負債の構造

2012年12月31日現在、未払い負債残高（有利子負債と借入金）は103億1,000万ドルでした（2011年12月31日現在では93億2,800万ドル）。2012年12月31日現在の未払い負債残高のうち、1年以内に返済期限が到来するのは9億100万ドル（2011年12月31日の時点では19億9,000万ドル）です。

2012年9月、当社は二種類の長期債券を発行し、新しく20億ドルの長期資産を調達しました（うち10億ドルは2019年に満期、クーポン1.95%、残り10億ドルは2042年に満期、クーポン4.00%）。債券発行による正味収入の19億8,000万ドルのうち17億5,000万ドルは、2012年9月に満期を迎えた債券（クーポン5.40%）の払戻しと、一般事業目的に使用されました。

2012年12月31日現在、アストラゼネカの90日以内に満期を迎える短期償還物を含むコマーシャルペーパー借入金残高は7億7,400万ドルでした（2011年12月31日、0ドル）。

前述の正味キャッシュフローのセクションで説明した正味キャッシュ流出の結果、2012年1月1日時点での28億4,900万ドルの正味資金は、2012年12月31日の時点で正味負債は13億6,900万ドルに減少しました。

配当および株式の買い戻し

取締役会は、2013年3月18日に支払われる2回目中間配当金として1.90ドル（120.5ペンス、12.08クローナ）を勧告しました。その結果、通年配当金は、2.80ドル（178.6ペンス、18.34クローナ）となります。

この配当は、取締役会が採択した、年間配当水準の維持もしくは増配を目的とした累進的配当政策に沿ったものです。本政策を採択するにあたり、取締役会は、独占権の失効と新製品の発売を迎えるこの時期に当社の売上基盤が移行することから、利益にある程度の変動が予想されることを認識しています。取締役会は、年間配当額については単年の財務実績のみを反映して決定するのではなく、投資サイクル全体にわたるグループの収益予想の見通しを反映した上で決定するとの見解を示しています。

当社は、配当倍率を評価する基準を改定しました。過去の基準は、報告ベースの利益（事業再構築費用控除前）の2倍（配当性向50%）を目標とした配当倍率でした。中核財務指標の新たな定義を採用したことにより、配当倍率の目標は、新定義の中核利益に基づく2倍となりました。独占権の失効や新製品発売の時期を通じて当社の収益ベースが変化した場合に予想される利益の変動を考慮し、取締役会は、任意の年の配当倍率が投資サイクルのために2倍の目標から変動する可能性があることを認識しています。

配分政策と全般的な財務戦略を設定するにあたり、取締役会は、引き続き当社、債務者、および株主それぞれの利益のバランスを図ることを目指しています。事業投資の準備、新たな配当政策に要する資金調達、当社の債務元利未払金の支払いを実施後、取締役会は、断続的な自社株買いを通じて、上記に要する額を超えた現金を株主に還元する機会を引き続き検討する予定です。

2012年度中に、当社グループは、5,780万株を合計26億3,500万ドルで買い戻す一方で、株式オプション行使の対価として1,220万株を4億2,900万ドルで発行しました。当社は、2012年の自己株式買戻しプログラムの中止を2012年10月1日に発表しました。

取締役会は、事業における投資の柔軟性を維持するため、2013年度は自己株式買戻しを行わないことを決定し

ました。

2012年12月31日現在の総発行済株式数は12億4,700万株でした。

今後の見通し

2012年通年の財務実績では、複数製品の独占権失効により、売上は大幅に減少しました。セロクエル IR のみで30億ドルの減少となりました。Atacand、ネキシウム、クレストールの地域的な独占権失効により、さらに10億ドル以上のマイナス影響が生じました。このような収益プロファイルにおいて、支出の管理と事業再構築によるコスト削減を行っても、特に将来の成長と価値に対する投資を行うため、中核利益およびマージンへの影響は部分的にしか緩和できない見込みです。2012年度の中核EPSのさらなる減少は、税関連の2つの項目（第2四半期の税金引当金の解除による0.19ドル、および第4四半期の繰延税金残高の調整による0.18ドル）、および第3四半期にネキシウムのOTC権利売却による0.16ドルのプラス影響によって回避されました。

2013年度も、政府による価格介入を含めて、困難な市況は変わらない見通しです。独占権の失効によって今後も業績に影響が生じると考えられ、特に、第1四半期のセロクエル IR とクレストール（カナダ）については、後発品の市場参入から未だ12カ月経っていないため、厳しい状況が予想されます。2013年度通年について、当社は恒常為替レート（CER）ベースで1桁台半ばから後半の売上減少を予想しています。

生産性・効率プログラムにより、今後も目標レベルの削減を達成できる見込みです。これらのプログラムにより、中核営業費用（中核研究開発費および販売・一般管理費用の合計）をCERベースで前年比微増に押さえることを目指しつつ、主要な成長プラットフォームを支え、パイプラインを前進させるための投資に必要な資金を確保することが可能です。通年の中核その他収入は、6億ドルを下回る見通しです。2013年度の実効税率は、約23%と予想しています。

以前開示したとおり、2013年第1四半期業績から、アストラゼネカは、グループが定義を変更した中核財務指標を使用して業績を報告します。このような変化を見越し、報告ベースとの細かな調整を行った上で、2011年度と2012年度について、過去に開示した中核基準と新たに定義した中核基準を記載しています（2012年度第4四半期および通年の調整は、8ページを参照）。

新しい中核基準に合わせて2012年度の中核財務実績を調整すると、通年の中核EPSは6.87ドルとなります。当社のガイダンスに沿った収益および事業運営費用のプロファイルを前提とすると、中核EPSは2013年度の売上よりも大きく減少する見通しです。

2010年1月、アストラゼネカは、2010年から2014年までの売上とマージンの変化についての予測をまとめました。しかし2013年のガイダンスが発表され、新戦略を策定中であることから、この予測は撤回されました。

当社は、2013年3月21日にCapital Markets Dayを開催し、事業戦略の優先事項について詳しく説明します。

2013年度の財務見通しは、2013年1月時点における主要通貨の平均為替レートに基づいています。このガイダンスには、2013年末までの平均為替レートが、財務ガイダンスが前提としている為替レートから大幅に変動する可能性は考慮されていません。米ドルに対する当社の主要取引通貨の変動によって、売上高や収益が受ける影響度の予想は、2012年度通年業績発表とともに示されており、当社ウェブサイトwww.astrazeneca.com/investorsで閲覧可能です。

中核財務指標の定義

以前発表した通り、2013年第1四半期業績から、アストラゼネカは中核財務指標の定義を変更し、ISに関連した無形固定資産を除く全ての無形資産の償却費と減損を除外します。営業およびファイナンシャルレビュー（2ページと4ページ）の表では、新しく定義された中核財務指標との細かな調整を行った上で、2012年第4四半期および通年の業績を提供しています。

2012年通年

1株当たり利益を除く財務上の数字は、すべて100万ドル単位。加重平均株数も100万単位。

	2012年 中核 [△] -s	前年 同月比 %	CER %	償却	無形資産 評価減	2012年 修正後 中核 [△] -s	前年 同月比 %	CER %
売上高	27,973	(17)	(15)	-	-	27,973	(17)	(15)
売上原価	(5,257)			325	-	(4,932)		
売上総利益	22,716	(18)	(16)	325	-	23,041	(17)	(15)
売上比%	81.2%	-1.0	-0.9			82.4%	-0.2	-0.2
物流費	(320)	(8)	(5)	-	-	(320)	(8)	(5)
売上比%	1.2%	-0.2	-0.2			1.2%	-0.2	-0.2
研究開発費	(4,452)	(12)	(11)	25	186	(4,241)	(5)	(4)
売上比%	15.9%	-0.9	-0.7			15.1%	-1.8	-1.6
販売・一般管理費	(8,541)	(14)	(12)	152	-	(8,389)	(15)	(13)
売上比%	30.5%	-1.0	-0.9			30.0%	-0.7	-0.6
その他収入	1,027	22	24	41	-	1,068	26	29
売上比%	3.7%	+1.2	+1.1			3.8%	+1.3	+1.3
営業利益	10,430	(21)	(18)	543	186	11,159	(20)	(17)
売上比%	37.3%	-1.9	-1.6			39.9%	-1.6	-1.3
正味金融費用	(430)			-	-	(430)		
税引前利益	10,000	(22)	(19)	543	186	10,729	(20)	(18)
税金	(1,885)			(107)	(45)	(2,037)		
税引後利益	8,115	(18)	(16)	436	141	8,692	(17)	(15)
少数株主持分	(30)			-	-	(30)		
純利益	8,085	(18)	(16)	436	141	8,662	(17)	(15)
加重平均株式数	1,261			1,261	1,261	1,261		
1株当たり利益	6.41	(12)	(9)	0.35	0.11	6.87	(11)	(8)

2012年第4四半期

1株当たり利益を除く財務上の数字は、すべて100万ドル単位。加重平均株数も100万単位。

	2012年 中核 [△] -s	前年 同期比 %	CER %	償却	無形資産 評価減	2012年 修正後 中核 [△] -s	前年 同期比 %	CER %
売上高	7,282	(16)	(15)	-	-	7,282	(16)	(15)
売上原価	(1,337)			127	-	(1,210)		
売上総利益	5,945	(16)	(15)	127	-	6,072	(15)	(14)
売上比%	81.6%	-0.2	-			83.4%	+1.2	+1.2
物流費	(79)	(7)	(7)	-	-	(79)	(7)	(7)
売上比%	1.1%	-0.1	-0.1			1.1%	-0.1	-0.1
研究開発費	(1,226)	(28)	(28)	7	39	(1,180)	(4)	(4)
売上比%	16.8%	+2.7	+3.1			16.2%	-2.1	-1.8
販売・一般管理費	(2,270)	(11)	(10)	66	-	(2,204)	(13)	(12)
売上比%	31.2%	-1.7	-1.6			30.3%	-1.1	-0.8
その他収入	162	(30)	(30)	24	-	186	(20)	(20)
売上比%	2.2%	-0.5	-0.5			2.6%	-0.1	-0.1
営業利益	2,532	(15)	(13)	224	39	2,795	(20)	(18)
売上比%	34.7%	+0.2	+0.9			38.4%	-2.2	-1.6
正味金融費用	(110)			-	-	(110)		
税引前利益	2,422	(16)	(13)	224	39	2,685	(21)	(18)

税金	(466)			(55)	(12)	(533)		
税引後利益	1,956	(7)	(4)	169	27	2,152	(14)	(11)
少数株主持分	(13)			-	-	(13)		
純利益	1,943	(8)	(4)	169	27	2,139	(14)	(11)
加重平均株式数	1,246			1,246	1,246	1,246		
1株当たり利益	1.56	(3)	1	0.14	0.02	1.72	(10)	(7)

研究開発の最新情報

当社研究開発パイプラインの総合的な最新情報は、2012年通年業績と共に提供しており、当社ウェブサイトでご覧になれます。

アストラゼネカのパイプラインでは現在 84 件のプロジェクトが進行中で、うち 71 件のプロジェクトが臨床開発段階にあり、さらに 13 件については承認済、発売済あるいは申請済です。また、新規分子化合物（NME）については現在 11 件が開発後期（第 III 相または承認審査中）の段階にあります。2012 年度には、臨床ポートフォリオ全体で 39 件のプロジェクト（うち 12 化合物が最初のヒトでの試験に移行）が次の段階に進み、19 件のプロジェクトが中止されました。

11 月に EU で *Forxiga* (dapagliflozin) が承認されたことは、研究開発部門にとって実りある 1 年のハイライトでした。このファーストインクラスの糖尿病治療薬が発売されたことにより、患者ケアに重要な貢献がもたらされます。2012 年 1 月に米国食品医薬品局（FDA）より審査完了報告通知（CRL）を受け取って以来、提携パートナーのブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共に FDA と広範な協議を続けてきましたが、2013 年半ばに新薬承認申請を再提出する見通しです。

その他の製品の承認におけるハイライトには、ヨーロッパ薬事当局による *Zinforo*（新規静脈注射用セファロスポリン系抗生物質）および *Caprelsa*（進行甲状腺癌がん治療薬）の承認があります。3 月、当社は米国で最初の 4 価インフルエンザワクチンである *FluMist Quadrivalent*（鼻腔スプレー式生インフルエンザワクチン）の承認を FDA より取得しました。日本ではシムビコート *SMART* および COPD の適応追加、ならびに低用量アスピリン投与時における胃潰瘍または十二指腸潰瘍の再発抑制におけるネキシウムと低用量アスピリンとの併用が承認され、ポートフォリオが強化されました。また *Brilinta/Brilique* に関して、第 4 四半期の中国での承認を含め、2012 年度は 24 件の承認を新たに取得しました。

Brodalumab は、IL-17 受容体に結合し、IL-17 受容体経路でシグナルを阻害するヒトモノクローナル抗体であり、アムジェン社と共同開発・共同販売している 5 つのモノクローナル抗体の 1 つです。中等度から重度までの乾癬治療に関して brodalumab を評価する第 III 相プログラムが 2012 年度第 3 四半期に開始されました。

2012 年度第 3 四半期の更新以降のパイプラインの進展は下記を含みます。

Forxiga

2012 年 11 月 14 日、アストラゼネカとブリストル・マイヤーズ スクイブ社は、欧州委員会 EU における 2 型糖尿病の治療薬として *Forxiga* (dapagliflozin) を承認したことを発表しました。*Forxiga* は、選択的かつ可逆的ナトリウム・グルコース共輸送体 2 (SGLT2) 阻害剤であり、インスリンとは独立して作用し、体内の過剰なグルコースを体外に排出します。これは、現在使用されている 2 型糖尿病治療薬にはない独自の作用機序です。これは、アンメット・ニーズの高い 2 型糖尿病の治療薬として、SGLT2 クラスで初めて薬事承認を取得した医薬品です。

Forxiga は、2 型糖尿病の成人患者の血糖コントロールを改善する 1 日 1 回投与の経口薬として適応されます。*Forxiga* は、食事療法と運動療法に加えて、インスリンを含む他の血糖降下剤との併用療法においてあるいはメトホルミンを使用しても十分な効果が得られない場合の単剤療法として使用されます。

Naloxegol

2012 年 11 月 12 日、当社は、非がん性疼痛とオピオイド鎮痛薬による便秘（OIC）患者における 2 件の第 III 相試験と、1 件の安全性試験の肯定的な結果概要を発表しました。これらの第 III 相 KODIAC 試験では、処方オピオイドの一般的な副作用である OIC を治療するための経口末梢性 μ オピオイド受容体拮抗薬である naloxegol の安全性と有効性を評価しました。

KODIAC-04 および KODIAC-05 はいずれも、naloxegol の 1 日 1 回 12.5 mg および 25 mg 投与を評価する 12 週間の多施設共同の無作為二重盲検プラセボ対照ピボタル試験です。両試験の主要評価項目は、12 週間の投与期間におけるプラセボと比較した OIC レスポンダーの割合でした。レスポナーは、12 週間のうち 9 週間以上および直近の 4 週間のうち 3 週間以上において、1 週間に 3 回以上の自発的排便 (SBM) があり、SBM がベースラインから 1 週間に 1 回以上増加することと定義されました。両試験の設計では、2 回の naloxegol 投与のうち 1 回以上でプラセボと比較して p 値が 0.025 未満になった場合、主要評価項目の統計的優位性が達成されたこととなります。

KODIAC-04 のデータ分析では、naloxegol 投与群 (12.5 mg および 25 mg) のどちらにおいても主要評価項目の統計的優位性が証明されました。P 値は、12.5 mg 投与群では 0.015、25 mg 投与群では 0.001 でした。

KODIAC-05 では、25 mg 投与群が主要評価項目について統計的に有意な結果を示しましたが、12.5 mg 投与群は統計的に有意な結果を示しませんでした。P 値は、12.5 mg 投与群では 0.202、25 mg 投与群では 0.021 でした。

分析では、KODIAC-04、KODIAC-05、KODIAC-07 試験の 3 つの投与群で、外部で判定された主要心血管事象を含む重篤な有害事象 (SAE) に臨床的に有意な不均衡は認められませんでした。両試験の naloxegol 投与群で最も一般的に見られた有害事象 (AE) は、腹痛、下痢、悪心でした。KODIAC-07 (KODIAC-04 の安全性試験) では、AE と SAE の発現率は KODIAC-04 および KODIAC-05 より低くなりました。重篤以外の有害事象では、関節痛が最も一般的に見られ、naloxegol 25 mg 投与群の患者でのみ報告されました。その他すべての一般的な AE は、3 つの投与群で同様に分布していました。KODIAC-04 および KODIAC-05 では、どちらの naloxegol 投与群もプラセボと比較して、1 日平均疼痛スコアまたは 1 日平均オピオイド総量のベースラインからの変化に有意差は認められませんでした。現在、これら 3 件の試験の安全性および忍容性試験結果の詳細な評価が進められています。

naloxegol は、2009 年 9 月 21 日に発表されたアストラゼネカと Nektar Therapeutics 社間の独占的グローバルライセンス契約に含まれます。

結果概要を報告する 3 件の試験には、KODIAC-04、KODIAC-05、KODIAC-07 が含まれます。KODIAC-04 および KODIAC-05 は 12 週間の有効性と安全性に関する反復ピボタル試験であり、KODIAC-07 は KODIAC-04 の 12 週間の安全性試験です。KODIAC-05 のデータベースを初期ロックした後、以前に検索不可能と評価された 1 人の患者に関連するデータが検索可能であることが判明しました。これらのデータがデータベースに追加され、データベースが再度ロックされ、最終分析が実施されました。これら 3 件の試験は、毎日オピオイド療法が必要である非がん性疼痛および OIC 患者で実施されました。

52 週間の長期非盲検無作為安全性試験 (KODIAC-08) への患者登録は完了しており、本試験は 2013 年度第 1 四半期に完了する予定です。

Fostamatinib

2012 年 12 月 13 日、当社は、関節リウマチ (RA) の経口治療薬として開発中の脾臓チロシンキナーゼ (SYK) に選択性を有する初のキナーゼ阻害剤である fostamatinib の第 IIb 相 OSKIRA-4 単剤療法試験の重要な結果を発表しました。

OSKIRA-4 は、疾患修飾性抗リウマチ薬 (DMARD) を使用したことがないか、DMARD に不耐容となったか、または DMARD で効果不十分であった患者 280 人において、関節リウマチの徴候と症状の改善を評価する 6 カ月間の試験であり、患者は、fostamatinib の単剤療法、adalimumab の単剤療法、またはプラセボに無作為に振り分けられました。OSKIRA-4 では、1 日 2 回 100 mg 投与、1 日 2 回 100 mg を 1 カ月間投与した後に 1 日 1 回 150 mg 投与、1 日 2 回 100 mg を 1 カ月間投与した後に 1 日 1 回 100 mg 投与という 3 種類の用量の fostamatinib が評価されました。

OSKIRA-4 には、6 週時点でのプラセボに対する優位性の比較と、24 週時点での DAS28 スコア (関節リウマチの徴候と症状を評価する複合評価項目) のベースラインからの変化を基準とする adalimumab 単剤療法に対する非劣性分析という 2 つの主要目的がありました。

OSKIRA-4 試験では、単剤療法としての fostamatinib が第一の主要目的を満了し、6 週目の時点でプラセボと比較して、1 日 2 回 100 mg 投与および 1 日 2 回 100 mg を 1 カ月間投与した後に 1 日 1 回 150 mg 投与は統計的に有意なベースラインからの DAS28 スコアの良好な変化を示しましたが、1 日 2 回 100 mg を 1 カ月間投与した後に 1 日 1 回 100 mg 投与は DAS28 スコアの良好な変化を示しませんでした。

DAS28 に基づき、24 週目の時点で、fostamatinib 単剤療法はいずれも adalimumab 単剤療法より劣性であったことから、OSKIRA-4 試験は第二の主要目的を満たしませんでした。

OSKIRA-4 試験で報告された fostamatinib の安全性と忍容性の結果は、第 II 相 TASKi プログラムで観察された結果と概ね一致しました。

規制当局への申請の根拠となる第 III 相 OSKIRA プログラムを構成するピボタル試験において、DMARD との併用療法で使用された fostamatinib のベネフィット/リスクプロファイルの総合的な評価が実施されおり、2013 年上半期に報告される予定です。

第 III 相 OSKIRA プログラムに基づき、DMARD との併用に関する米国および EU での規制当局への申請は、2013 年度第 4 四半期に実施される見通しです。

売上高

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート (CER)。

製品別、地域別のグループ売上高の完全な分析は、注 8、9 を参照。

	第 4 四半期		CER %	通年		CER %
	2012 年 100 万ドル	2011 年 100 万ドル		2012 年 100 万ドル	2011 年 100 万ドル	
消化器						
ネキシウム	1,047	1,067	-1	3,944	4,429	-10
Losec/Prilosec (オメプラール)	156	248	-36	710	946	-24
循環器						
クレストール	1,622	1,771	-7	6,253	6,622	-4
Onglyza	88	71	+24	323	211	+53
Byetta	47	-	n/m	74	-	n/m
Bydureon	26	-	n/m	37	-	n/m
Brilinta/Brilique	38	5	n/m	89	21	+348
Atacand	202	346	-41	1,009	1,450	-27
セロケン/Toprol-XL	256	236	+10	918	986	-4
呼吸器および炎症						
シムビコート	891	839	+8	3,194	3,148	+5
パルミコート	242	223	+9	866	892	-1
オンコロジー						
ゾラデックス	271	298	-7	1,093	1,179	-5
アリミデックス	122	166	-25	543	756	-26
カソデックス	112	142	-19	454	550	-16
イレッサ	160	149	+10	611	554	+12
フェソロデックス	175	149	+20	654	546	+24
Caprelsa	8	4	+125	27	8	+250
ニューロサイエンス						
セロクエル	476	1,546	-69	2,803	5,828	-51
セロクエル IR	94	1,148	-92	1,294	4,338	-70
セロクエル XR	382	398	-3	1,509	1,490	+4
ゾーミッグ	39	101	-60	182	413	-54
Vimovo	18	14	+29	65	34	+97
感染症・その他						
Synagis	503	411	+22	1,038	975	+6
Merrem	106	114	-5	396	583	-29
FluMist	32	34	-6	181	161	+12

消化器

- ネキシウムの米国の第 4 四半期売上は前年同期比 3%減の 5 億 9,700 万ドルでした。小売部門の調剤量は 10%減少しました。低利益率のメディケイド処方大幅に減少したため、平均小売価格が上昇しました。ネキシウムの米国での通年売上は 5%減の 22 億 7,200 万ドルでした。
- ネキシウムの米国以外の第 4 四半期売上は 4 億 5,000 万ドルで横ばいでした。西ヨーロッパの売上は、主に後発品の競合の影響を受けて 34%減でした。米国・西ヨーロッパ以外の地域の既成市場の売上は、日本において、市場で認可されて 1 年未満の新薬の処方量を 2 週間と定める療担規則（保険医療機関及び保健医療養担当規則）が 10 月に解除されたことにより売上が伸び、11%増加しました。新興市場の売上高は、中国の 47%の成長とヨーロッパの新興市場での好業績に牽引され、20%増でした。ネキシウムのその他の市場の通年売上は、15%減の 16 億 7,200 万ドルでした。
- Losec の米国以外の第 4 四半期売上は 36%減の 1 億 5,100 万ドルで、これは主に日本での売上が減少したことによるものです。通年売上は 24%減の 6 億 8,000 万ドルでした。

循環器

- クレストールの米国の第 4 四半期売上は、2%増の 8 億 6,200 万ドルでした。スタチン製剤の米国の総処方量は 2%増加しました。クレストールの総処方量は 6%減でした。多数発売されたアトルバスタチン後発品の参入後も底堅い業績を維持していましたが売上数量はやや減少しました。シンバスタチンの添付文書改訂に伴って、クレストールへの切り替えが増加した昨年との比較において、当期は対照的な結果となりました。当期における処方量には、低利益率のメディケイド処方での利益を追求しないという決定も反映されており、その影響は第 3 四半期から表れはじめています。クレストールの米国の通年売上は 3%増の 31 億 6,400 万ドルでした。
- クレストールの米国以外の第 4 四半期売上は、特許訴訟の和解によって 2012 年 4 月にカナダで独占権が失効したことを受けて、16%減の 7 億 6,000 万ドルでした。その結果、第 4 四半期のカナダの売上は 84%減少しました。カナダを除く米国以外の売上は横ばいでした。西ヨーロッパの売上は 1%減少しました。日本と新興市場では順調に成長しましたが、オーストラリアとニュージーランドでの減少により大幅に相殺されました。クレストールの米国以外の通年売上は、9%減の 30 億 8,900 万ドルでした。
- ブリストル・マイヤーズ スクイブ社との提携から生じる第 4 四半期の Onglyza の提携収入は 24%増の 8,800 万ドルでした。そのうち 6,300 万ドルは米国、2,500 万ドルは米国以外の売上でした。2012 年 12 月の米国の DPP4 市場の総処方量のうち、Onglyza のシェアは 11.8%でした。Kombiglyze XR は、フランチャイズに対するシェアの合計をさらに 6.0%増の 17.8%に拡大し、2011 年 12 月から 1.3 ポイント増となりました。通年の全世界での提携収入は 53%増の 3 億 2,300 万ドルでした。2012 年の第 4 四半期にヨーロッパで Komboglyze (saxagliptin とメトホルミン HCl 速放製剤との配合剤) を発売しました。
- Brilinta/Brilique の全世界の第 4 四半期売上は 3,800 万ドルで、うち 2,200 万ドルは西ヨーロッパでの売上でした。西ヨーロッパの売上の約 40%をドイツが占めており、ドイツでは、Brilique がプロトコールに記載されている標的病院において、Brilique がプラスグレルとクロピドグレルを上回り、引き続き ACS 患者を対象にした経口抗血小板薬のトップ製品でした。Brilique は小売市場のダイナミックシェア第 2 位で、経口抗血小板治療薬の 10.1%を占めています。
- Brilinta の米国での第 4 四半期売上は、処方需要に伴い、900 万ドルでした。当社は、処方アクセス、プロトコールの採用、およびインターベンションを行う心臓専門医師による製品使用率に関して着実に前進し続けています。第 4 四半期の米国での Brilinta の総処方量は、2012 年第 3 四半期と比べ 46%増加しました。
- Brilinta/Brilique の全世界の通年売上は 8,900 万ドルでした。
- Atacand の米国の第 4 四半期売上は 26%減の 3,200 万ドルでした。12 月に Atacand 単剤および利尿薬配合剤の両製品の独占権が失効しましたが、現在までに発売された後発品は、利尿薬配合剤のみです。通年売上は 18%減の 1 億 5,000 万ドルでした。
- Atacand の米国以外の第 4 四半期売上は、43%減の 1 億 7,000 万ドルでした。これは主に、西ヨーロッパで独占権が失効したことにより売上が 64%減少したためです。通年の米国・西ヨーロッパ以外の地域の売上は、29%減の 8 億 5,900 万ドルでした。

- 自社後発品の売上を含む Toprol-XL 製品レンジの米国の第 4 四半期売上は、10%増の 9,800 万ドルでした。処方量は相対的に横ばいで、新たな競合製品の発売により平均実勢小売価格が低下した一方、返品準備金の調整が有利に影響し、売上は増加しました。米国の通年売上は 21%減の 3 億 2,000 万ドルでした。
- セロケンの米国以外の第 4 四半期売上は、新興市場の売上 17%増を受けて、10%増の 1 億 5,800 万ドルでした。通年売上は 7%増の 5 億 9,800 万ドルでした。

呼吸器および炎症

- シムビコートの米国の第 4 四半期売上は、前年比 13%増の 2 億 7,300 万ドルでした。シムビコートの総処方量は、定量配合剤の市場が 4%増であったのに対して、15%増でした。定量配合剤の合計処方量に占めるシムビコートのシェアは、2011 年 12 月から 2 ポイント増加して、2012 年 12 月に 22.3%に達しました。新規配合剤治療の新規患者での市場シェアは 27.7%です。シムビコートの米国での通年売上は 19%増の 10 億 300 万ドルで、初めて 10 億ドルを超えました。
- シムビコートの米国以外の第 4 四半期売上は 6%増の 6 億 1,800 万ドルでした。西ヨーロッパの売上は 1%減でした。米国・西ヨーロッパ以外の既成市場の売上は、日本の売上がマーケティングパートナーへの製品出荷調整により 43%増加したことを受けて、23%増加しました。日本市場でのシェアは、シムビコートの SMART 療法導入と COPD の適応追加に牽引され、年初より 7 ポイント超増加しました。新興市場の売上は、ロシアと中国の良好な成長により、8%増加しました。シムビコートの米国・西ヨーロッパ以外の地域の通年売上は、21 億 9,100 万ドルで横ばいでした。
- パルミコートの米国の第 4 四半期売上は 8%減の 5,600 万ドルでした。通年売上は 16%減の 2 億 3,300 万ドルでした。
- パルミコートの米国・西ヨーロッパ以外の地域の第 4 四半期売上は、主に中国の売上が 70%増加したことに牽引され、15%増の 1 億 8,600 万ドルでした。パルミコートの米国・西ヨーロッパ以外の地域の売上は、前年比 6%増の 6 億 3,300 万ドルでした。

オンコロジー

- アリミデックスの米国の第 4 四半期売上は 400 万ドルで、通年では 2,100 万ドルでした。
- アリミデックスの米国・西ヨーロッパ以外の地域の第 4 四半期売上は、25%減の 1 億 1,800 万ドルでした。西ヨーロッパの同期売上は、独占権失効により 44%減の 2,400 万ドルでした。当四半期における売上の半分以上を占める日本の売上は横ばいでした。新興市場の売上は 28%減でした。アリミデックスの米国・西ヨーロッパ以外の地域の通年売上は 25%減の 5 億 2,200 万ドルでした。
- カソデックスの米国以外の第 4 四半期売上は、22%減の 1 億 1,200 万ドルでした。全世界の売上の約 3 分の 2 を占める日本の第 4 四半期売上は 21%減、西ヨーロッパの売上は 29%減、新興市場の売上は 21%減でした。カソデックスの米国・西ヨーロッパ以外の地域の通年売上は 17%減の 4 億 5,700 万ドルでした。
- イレッサの第 4 四半期売上は、10%増の 1 億 6,000 万ドルでした。新興市場の売上は 7%増、西ヨーロッパの売上は 15%増、日本の売上は 9%増でした。イレッサの全世界での通年売上は 12%増の 6 億 1,100 万ドルでした。
- フェソロデックスの米国の第 4 四半期売上は、15%増加し 8,300 万ドルに達しました。現在、米国の患者の 4 分の 3 に対して 500mg レジメンが採用されており、数量ベースの増加分の多くは、フェソロデックスによる治療を受ける患者が増加したことによるものです。米国の通年売上は 17%増の 3 億 1,000 万ドルでした。
- フェソロデックスの米国・西ヨーロッパ以外の地域の第 4 四半期売上は 25%増の 9,200 万ドルで、堅調な増加の 4 分の 3 超を日本が占めています。西ヨーロッパの売上は増加したものの、フランスにおける値下げの影響に相殺され、横ばいとでした。新興市場の売上は 14%増でした。米国・西ヨーロッパ以外の地域の通年売上は 30%増加の 3 億 4,400 万ドルでした。

ニューロサイエンス

- セロクエル IR の米国の当四半期売上は、割戻金のマイナスの調整（メディケイドプログラムの利用が予

想を上回ったため)の結果、減少しました。2012年12月、クエチアピンにおけるセロクエルIRの処方シェアは2.8%に減少しました。セロクエルIRの米国の通年売上は79%減の6億9,700万ドルでした。

- セロクエルXRの米国の当四半期売上は、前年同期比100万ドル減の2億1,300万ドルでした。セロクエルXRの総処方量は8%減でした(米国の抗精神病薬市場は1%減)。セロクエルXRの米国の通年売上は4%増の8億1,100万ドルでした。
- セロクエルIRの米国・西ヨーロッパ以外の地域の第4四半期売上は、55%減の1億600万ドルで、これは主に西ヨーロッパでの売上が77%減少したことによるものです。米国・西ヨーロッパ以外の既成市場の売上は37%減少し、新興市場の売上は19%減少しました。セロクエルIRの米国・西ヨーロッパ以外の地域の通年売上は38%減の5億9,700万ドルでした。
- セロクエルXRの米国・西ヨーロッパ以外の地域の第4四半期売上は5%減の1億6,900万ドルでした。西ヨーロッパの売上は16%減でした。これは、主に後発品が一部市場で発売されたことによるものですが、フランスでの発売後の順調な売上により一部相殺されました。セロクエルXRの売上は、米国・西ヨーロッパ以外の既成市場で17%増、新興市場で18%増でした。セロクエルXRの米国・西ヨーロッパ以外の地域の通年売上高は、前年比5%増の6億9,800万ドルでした。
- ゾーミッグの米国の第4四半期売上は200万ドルでした。米国でのゾーミッグ販売権はImpax Laboratories社が有しており、アストラゼネカに対する米国でのゾーミッグによる業績への寄与は売上ではなくその他収入として計上しています。ゾーミッグの米国・西ヨーロッパ以外の地域の第4四半期売上は、主に西ヨーロッパでの後発品との競合により、37%減の3,700万ドルでした。
- Vimvoの第4四半期売上は29%増の1,800万ドルで、そのうち600万ドルが米国、1,200万ドルが米国・西ヨーロッパ以外の地域の売上です。

感染症・その他

- Synagisの米国の第4四半期売上は、16%増の3億300万ドルで、これにはメディケイドの割戻引当金の調整により生じたプラスの調整も含まれています。米国以外の第4四半期売上は、33%増の2億ドルでした。これは、第3四半期の9%減と同様に、販売提携先アボット社への四半期ごとの出荷調整を反映したためです。
- Merremの通年売上は、多くの市場で後発品が競合した結果、29%減の3億9,600万ドルでした。
- FluMistの第4四半期売上は3,200万ドルで、通年では前年比12%増の1億8,100万ドルでした。

地域別売上高

	第4四半期		同期比 (%)		通年		同期比 (%)	
	2012年	2011年	実質	CER	2012年	2011年	実質	CER
	100万ドル	100万ドル			100万ドル	100万ドル		
米国	2,823	3,643	-23	-23	10,655	13,426	-21	-21
西ヨーロッパ ¹	1,624	2,005	-19	-16	6,486	8,501	-24	-19
ROWの既成市場 ²	1,347	1,600	-16	-14	5,080	5,901	-14	-14
日本	860	926	-7	-3	2,904	3,064	-5	-5
カナダ	209	363	-42	-44	1,090	1,604	-32	-31
その他のROWの既成市場	278	311	-11	-14	1,086	1,233	-12	-12
ROWの新興市場 ³	1,488	1,408	+6	+6	5,752	5,763	-	+4
ヨーロッパの新興市場	324	317	+2	+4	1,165	1,244	-6	+2
中国	384	314	+22	+20	1,512	1,261	+20	+17
アジア太平洋の新興市場	235	236	-	-2	923	968	-5	-3
その他のROWの新興市場	545	541	+1	+4	2,152	2,290	-6	-
合計	7,282	8,656	-16	-15	27,973	33,591	-17	-15

¹西ヨーロッパを構成するのは、フランス、ドイツ、イタリア、スウェーデン、スペイン、英国、その他です。

²ROW(米国・西ヨーロッパ以外の地域)の既成市場を構成するのは、カナダ、日本、オーストラリアおよびニュージーランドです。

³ROWの新興市場を構成するのは、ブラジル、中国、インド、メキシコ、ロシア、トルコ、およびその他すべてのROW諸国です。

- 米国の通年売上は 21%減で、主にセロクエル IR の独占権失効によるものですが、アストラテックと Aptium の売却も売上減少の一因です。シムビコート、クレストール、Onglyza およびフェソロデックスは順調に成長しました。ブリストル・マイヤーズ スクイブ社との糖尿病アライアンスの拡大が完了したことによる Amylin 社の糖尿病製品の追加も、売上増に寄与しました。
- 西ヨーロッパの通年売上は 19%減でした。セロクエル IR の独占権が失効したことに加え、ネキシウム、Atacand、Merrem の後発品との競合がさらに売上を減少させました。これら 4 製品は、通年売上減少の 60%以上を占めています。Brilique、クレストール、Onglyza、フェソロデックス、イレッサの売上は増加しました。
- 米国・西ヨーロッパ以外の既成市場の通年売上は 14%減でした。カナダの売上は 31%減で、これは主に、4 月に発売されたクレストールの後発品および Atacand とネキシウムの後発品との競合によるものです。日本では、主に隔年薬価改定の影響を受けて薬価が下落し、売上が 5%減少しました。ネキシウム、シムビコート、セロクエル IR の市場における実勢売上は堅調でしたが、販売提携先の発注に基づく報告ベースの工場出荷ベースの売上にはこの良好な業績は反映されませんでした。その他の既成市場の売上は、セロクエル IR と Merrem の独占権失効ならびにオーストラリアでのクレストールに関する困難な価格環境からのマイナス影響を受けました。
- 新興市場の第 4 四半期売上は 6%増で、その結果、通年売上は 4%増加しました。これには、サプライチェーン問題で上半期の業績が厳しかったことによる影響も含まれています。中国の通年売上は 17%増の 15 億 1,200 万ドルで、現在、中国は当社の売上の第 3 位に位置する市場となっています。その他の比較的大きな市場では、ロシア、サウジアラビア、ルーマニアにおいて売上の堅実な成長が見られました。通年売上の成長は、メキシコ（後発品と厳しい市場状況）、ブラジル（クレストール、セロクエル IR の独占権失効）、トルコ（政府の価格介入）、インド（現地調達における問題）の 4 市場における業績の低迷により阻害されました。

要約連結包括利益計算書

12月31日までの1年間	2012 100万ドル	2011 100万ドル
売上高	27,973	33,591
売上原価	(5,393)	(6,026)
売上総利益	22,580	27,565
物流費	(320)	(346)
研究開発費 ¹	(5,243)	(5,523)
販売・一般管理費	(9,839)	(11,161)
子会社の売却による利益	-	1,483
その他営業損益	970	777
営業利益	8,148	12,795
金融収益	528	552
金融費用	(958)	(980)
税引前利益	7,718	12,367
税金	(1,391)	(2,351)
当期利益	6,327	10,016
その他の包括利益：		
連結に伴う為替換算損益	106	(60)
純投資ヘッジのための借入金における為替差損益	(46)	24
純投資ヘッジで指定された金融派生商品における公正価値の変動	76	-
キャッシュフローヘッジの損失の償却	1	2
売却可能金融資産評価利益	72	31
年金数理による当期損失	(85)	(741)
その他の包括利益に係る法人所得税	(46)	198
当期包括利益（税引後）	78	(546)
当期包括利益合計	6,405	9,470
当期利益の帰属：		
親会社の所有者	6,297	9,983
少数株主持分	30	33
	6,327	10,016
包括利益合計の帰属：		
親会社の所有者	6,395	9,428
少数株主持分	10	42
	6,405	9,470
額面 0.25 ドル普通株式 1 株当たり利益	\$4.99	\$7.33
希薄化後額面 0.25 ドル普通株式 1 株当たり利益	\$4.98	\$7.30
加重平均発行済普通株式数（百万株）	1,261	1,361
希薄化後加重平均発行済普通株式数（百万株）	1,264	1,367

¹ 2012年度の研究開発費には、開発中のプロジェクトに関連する総額 1 億 8,600 万ドルの無形資産評価減が含まれます。2011年度の研究開発には、olaparib、TC-5214、および開発中のその他のプロジェクトに関連する総額 5 億 4,900 万ドルの無形資産評価減が含まれます。

要約連結包括利益計算書

12月31日までの第4四半期	2012 100万ドル	2011 100万ドル
売上高	7,282	8,656
売上原価	(1,398)	(1,612)
売上総利益	5,884	7,044
物流費	(79)	(85)
研究開発費 ¹	(1,320)	(1,867)
販売・一般管理費	(2,669)	(3,141)
その他営業損益	148	216
営業利益	1,964	2,167
金融収益	138	126
金融費用	(248)	(241)
税引前利益	1,854	2,052
税金	(320)	(559)
当期利益	1,534	1,493
その他の包括利益：		
連結に伴う為替換算損益	(109)	(81)
純投資ヘッジのための借入金における為替差損益	(21)	49
純投資ヘッジで指定された金融派生商品における公正価値の変動	76	-
キャッシュフローヘッジの損失の償却	-	-
売却可能金融資産評価利益	33	36
年金数理による当期利益（損失）	127	(688)
その他の包括利益に係る法人所得税	(42)	194
当期包括利益（税引後）	64	(490)
当期包括利益合計	1,598	1,003
当期利益の帰属：		
親会社の所有者	1,521	1,486
少数株主持分	13	7
	1,534	1,493
包括利益合計の帰属：		
親会社の所有者	1,603	999
少数株主持分	(5)	4
	1,598	1,003
額面 0.25 ドル普通株式 1 株当たり利益	\$1.22	\$1.16
希薄化後額面 0.25 ドル普通株式 1 株当たり利益	\$1.22	\$1.16
加重平均発行済普通株式数（百万株）	1,246	1,312
希薄化後加重平均発行済普通株式数（百万株）	1,248	1,317

¹ 2012年度の研究開発費には、開発中のプロジェクトに関連する総額 3,900 万ドルの無形資産評価減が含まれます。2011年度の研究開発費には、olaparib、TC-5214、および開発中のその他のプロジェクトに関連する総額 4 億 6,700 万ドルの無形資産評価減が含まれます。

要約連結財政状態計算書

	2012年 12月31日現在 100万ドル	2011年 12月31日現在 100万ドル
資産		
非流動資産		
有形固定資産	6,089	6,425
営業権	9,898	9,862
無形固定資産	16,448	10,980
金融派生商品	389	342
その他の投資	199	201
その他の債権	352	-
繰延税金資産	1,111	1,514
	34,486	29,324
その他		
棚卸資産	2,061	1,852
売掛金およびその他の債権	7,629	8,754
その他の投資	823	4,248
金融派生商品	31	25
未収法人所得税	803	1,056
現金および現金同等物	7,701	7,571
	19,048	23,506
資産合計	53,534	52,830
負債		
流動負債		
有利子負債・借入金	(901)	(1,990)
買掛金およびその他の債務	(9,221)	(8,975)
金融派生商品	(3)	(9)
引当金	(916)	(1,388)
未払法人所得税	(2,862)	(3,390)
	(13,903)	(15,752)
非流動負債		
有利子負債・借入金	(9,409)	(7,338)
繰延税金負債	(2,576)	(2,735)
退職給付債務	(2,265)	(2,674)
引当金	(428)	(474)
その他の債務	(1,001)	(385)
	(15,679)	(13,606)
負債合計	(29,582)	(29,358)
純資産	23,952	23,472
資本		
親会社の所有者に帰属する資本金および準備金		
資本金	312	323
株式払込剰余金	3,504	3,078
その他の積立金	1,960	1,951
利益剰余金	17,961	17,894
	23,737	23,246
少数株主持分	215	226
資本合計	23,952	23,472

要約連結キャッシュフロー計算書

12月31日までの1年間	2012年 100万ドル	2011年 100万ドル
営業活動によるキャッシュフロー		
税引前利益	7,718	12,367
金融収益および費用	430	428
減価償却費、償却費および減損損失	2,518	2,550
運転資本および短期引当金の増加	(706)	(897)
子会社の売却による利益	-	(1,483)
非現金その他の変動	(424)	(597)
営業活動から得られたキャッシュ	9,536	12,368
支払利息	(545)	(548)
支払税金	(2,043)	(3,999)
営業活動による正味キャッシュ流入	6,948	7,821
投資活動によるキャッシュフロー		
短期投資および固定性預金の変動	3,619	(2,743)
有形固定資産の取得	(672)	(839)
有形固定資産の売却	199	102
無形固定資産の取得	(3,947)	(458)
非流動投資の取得	(46)	(11)
非流動投資の売却	43	-
事業活動の買収	(1,187)	-
子会社の売却により得られた正味現金	-	1,772
受取配当金	7	-
受取利息	145	171
子会社による非支配持分に対する支払	(20)	(16)
投資活動による正味キャッシュ流出	(1,859)	(2,022)
財務活動前の正味キャッシュ流出	5,089	5,799
財務活動によるキャッシュフロー		
株式の発行による収入	429	409
自社株式の取得による支出	(2,635)	(6,015)
借入金の発行	1,980	-
借入金の返済	(1,750)	-
支払配当金	(3,665)	(3,764)
支払配当金に関連するヘッジ契約	48	3
ファイナンスリースの債務の弁済	(17)	-
短期借入金の変動	687	46
財務活動による正味キャッシュ流出	(4,923)	(9,321)
当期現金および現金同等物の正味増加（減少）額	166	(3,522)
現金および現金同等物期首残高	7,434	10,981
為替変動による影響	(4)	(25)
現金および現金同等物期末残高	7,596	7,434
現金および現金同等物の内訳：		
現金および現金同等物	7,701	7,571
当座貸越	(105)	(137)
	7,596	7,434

要約連結持分変動計算書

	資本金 100万 ドル	株式払込 み剰余金 100万 ドル	その他の 積立金* 100万 ドル	利益 剰余金 100万 ドル	合計 100万 ドル	少数株主 持分 100万 ドル	資本合計 100万 ドル
2011年1月1日現在	352	2,672	1,917	18,272	23,213	197	23,410
当期利益	-	-	-	9,983	9,983	33	10,016
その他の包括利益	-	-	-	(555)	(555)	9	(546)
その他の積立金への振替	-	-	2	(2)	-	-	-
所有者との取引：							
配当金	-	-	-	(3,752)	(3,752)	-	(3,752)
普通株式の発行	3	406	-	-	409	-	409
自己株式の取得	(32)	-	32	(6,015)	(6,015)	-	(6,015)
株式報酬	-	-	-	(37)	(37)	-	(37)
少数株主持分から支払債務 への振替	-	-	-	-	-	(9)	(9)
非支配持分に対する配当金	-	-	-	-	-	(4)	(4)
純変動	(29)	406	34	(378)	33	29	62
2011年12月31日現在	323	3,078	1,951	17,894	23,246	226	23,472
	資本金 100万 ドル	株式払込 み剰余金 100万 ドル	その他の 積立金* 100万 ドル	利益 剰余金 100万 ドル	合計 100万 ドル	少数株主 持分 100万 ドル	資本合計 100万 ドル
2012年1月1日現在	323	3,078	1,951	17,894	23,246	226	23,472
当期利益	-	-	-	6,297	6,297	30	6,327
その他の包括利益	-	-	-	98	98	(20)	78
その他の積立金への振替	-	-	(5)	5	-	-	-
所有者との取引：							
配当金	-	-	-	(3,619)	(3,619)	-	(3,619)
普通株式の発行	3	426	-	-	429	-	429
自己株式の取得	(14)	-	14	(2,635)	(2,635)	-	(2,635)
株式報酬	-	-	-	(79)	(79)	-	(79)
少数株主持分から支払債務 への振替	-	-	-	-	-	(10)	(10)
少数株主持分に対する 配当金	-	-	-	-	-	(11)	(11)
純変動	(11)	426	9	67	491	(11)	480
2012年12月31日現在	312	3,504	1,960	17,961	23,737	215	23,952

* その他の積立金には、資本償還準備金や合併準備金が含まれます。

期中財務諸表の注記

1 表示の基礎および会計方針

2012年12月31日までの1年間の年次決算報告書は、欧州連合によって採択され、国際会計基準審議会によって発行された国際財務報告基準（IFRS）に従って作成されました。2011年度のアストラゼネカ PLC のアニュアルレポートおよび米国証券取引委員会（SEC）への提出書類 20-F で提示されている会計方針から大きな変更はありません。

2013年1月1日以降、アストラゼネカグループ（以下、グループ）は、2012年6月にEUで承認されたIAS第19号「従業員給付」への改正を採用します。この改正により、金融収益として報告される予想年金資産収益の計算に使用する方法が変わります。結果として、金融収益は減少する見通しです。この改正の採用に伴い、前期の金融収益が修正再表示され、2012年度は約7,000万ドルの減少、2011年度は約8,500万ドルの減少となります。IAS第19号の改定による、グループ純資産への影響は軽微と予想しています。

注記7に含まれる情報は、2011年度のグループのアニュアルレポート、米国証券取引委員会（SEC）への提出書類 20-F に記載された法的手続きと偶発債務に関する開示情報、ならびに2012年第3四半期と9ヵ月累積の業績を更新するものです。

グループは多くの財源を保有しています。2012年12月31日現在、グループの金融資産は98億ドル（現金残高77億ドル、2017年4月まで使用可能な契約に基づく未使用の銀行借入枠30億ドル、1年以内に返済期限が到来する負債9億ドル）でした。グループ売上の大半は、特許有効期間中の製品によるものであり、キャッシュの流入は比較的底堅く、予測可能な状況ですが、中期的には引き続き売上が特許失効の影響を大きく受けると予想しています。さらに、成熟市場の多くで、昨今の予算抑制に伴う政府による価格介入を受けて、売上にマイナスの影響が生じる見通しです。一方、近年発売した製品および開発中の製品から新たな売上を見込んでいます。また、グループはさまざまな地域に幅広い顧客とサプライヤーを擁しています。結果として、取締役は、現在の経済見通しは不確実ですが、全体として、グループがビジネスリスクを管理できる状態にあると考えています。

取締役は、調査を経て、当社とグループが予見可能な未来において事業を継続するために十分な資源を保持しているものと予測しています。したがって、年次決算報告書は「継続企業」であるとの前提で作成されています。

年次決算報告書に含まれる財務情報は、2012年12月31日および2011年12月31日に終了する各年度におけるグループの法定決算を構成するものではありませんが、それらの決算から導き出されています。2011年度の法定決算は株式登録機関に提出され、2012年度の法定決算も期限どおり提出される予定です。監査人がこれらの計算書類の監査報告を行っています。報告は、(i) 無限定適正であり、(ii) 監査人が報告に限定を加えることなく強調して注意を促したい事項はなく、(iii) 2006年会社法の498節(2)または(3)の規定に該当する事項を含まないものでした。

2 正味負債

以下の表では、正味負債を分析し、正味負債の変動に応じて正味キャッシュフローを調整しています。

	2012年 1月1日現在 100万ドル	キャッシュ フロー 100万ドル	買収 100万ドル	非現金 変動 100万ドル	為替変動 100万ドル	2012年 12月31日現在 100万ドル
1年超返済予定長期借入金	(7,338)	(1,980)	-	17	(46)	(9,347)
1年超返済予定ファイナンスリース	-	-	-	(61)	(1)	(62)
長期負債合計	(7,338)	(1,980)	-	(44)	(47)	(9,409)
1年内返済予定長期借入金	(1,769)	1,750	-	19	-	-
1年内返済予定ファイナンスリース	-	17	-	(39)	-	(22)
流動負債合計	(1,769)	1,767	-	(20)	-	(22)
その他の投資－短期	4,248	(3,619)	102	70	22	823
正味金融派生商品	358	(48)	-	107	-	417
現金および現金同等物	7,571	132	-	-	(2)	7,701
当座貸越	(137)	34	-	-	(2)	(105)
短期借入金	(84)	(687)	-	-	(3)	(774)
	11,956	(4,188)	102	177	15	8,062
正味資金（負債）	2,849	(4,401)	102	113	(32)	(1,369)

当期の非現金変動には、IAS39に規定された公正価値調整および新しく開始したファイナンスリースが含まれます。

3 事業再構築費用

2012年12月31日までの通年の税引前利益は、15億5,800万ドルの事業再構築費用（前年は11億6,100万ドル）を含めて計上しています。以下の項目で、利益から控除されています。

	第4四半期 2012年 100万ドル	第4四半期 2011年 100万ドル	通年 2012年 100万ドル	通年 2011年 100万ドル
売上原価	61	36	136	54
研究開発費	94	175	791	468
販売・一般管理費	243	448	631	639
合計	398	659	1,558	1,161

4 Ardea社の買収

2012年6月19日、アストラゼネカはArdea Biosciences社の買収を完了しました。Ardea社は米国（カリフォルニア州サンディエゴ）に本社を持つバイオテクノロジー企業で、主に重篤な疾患の治療に向けた低分子化合物の開発を行っています。アストラゼネカは12億6,800万ドルでArdea社株の100%を取得しました。

ほとんどの事業買収には、買収した識別可能資産および負債に属さない費用が一部あり、のれんとして認識されます。Ardea社の買収では、決算期の個別には定量化できない多くの要素によってのれんが構成されています。これらのうち最も重要なものは、熟練した人材と痛風領域で積み上げた経験に帰する評価です。

Ardea社の業績は、2012年6月20日から当社の業績に連結しています。買収から2012年12月31日までの期間におけるArdea社の収入は軽微で、純損失は4,300万ドルでした。2012年12月31日までのArdea社の通年売上は1,100万ドル、純損失は1億2,300万ドルでした。

	帳簿価格 100万ドル	公正価値調整 100万ドル	公正価値 100万ドル
非流動資産			
無形固定資産	-	1,464	1,464
その他	4	-	4
	4	1,464	1,468
流動資産	199	-	199
流動負債	(31)	(1)	(32)
非流動負債			
繰延税金負債	-	(397)	(397)
	-	(397)	(397)
買収した総資産	172	1,066	1,238
営業権			30
買収金額の公正価値			1,268
差引額：現金取得額			(81)
キャッシュ流出			1,187

5 ブリストル・マイヤーズ スクイブ社とのAmylin社製品に関する提携

2012年8月8日、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社（以下ブリストル・マイヤーズ スクイブ）はAmylin Pharmaceuticals社（以下Amylin）の買収を完了し、同日よりアストラゼネカとブリストル・マイヤーズ スクイブの両社は、既存の糖尿病領域における提携の枠組みに基づき、Amylinの製品ポートフォリオの開発および販売に関する提携契約を締結しました。この提携のもと、両社は共同で世界規模での提携製品の営業・販売活動を行います。ブリストル・マイヤーズ スクイブが製品を製造し、アストラゼネカは提携製品を原価で受け取ります。提携から生じる損益は、均等に配分します。

アストラゼネカの提携参加に関する支出の総額は、特定の追加的な権利を取得するためのオプションに関連する1億3,500万ドルを含め、37億ドルに上ります。アストラゼネカグループは、2012年8月にオプションを行使する決定をブリストル・マイヤーズ スクイブに通知しました。適用される反トラストおよび競争に関する承認が得られ次第、残額1億3,500万ドルを支払う予定です。支払いは2013年度上半期の見通しで、支払いが完了すると、オプションで認められるアストラゼネカの追加的な権利が法的に有効になります。

アストラゼネカは今回の提携合意と、オプションとして得る権利に関する戦略上、または財務上の決定が、この提携を成功に導くために重要であると考えています。この提携は両社による共同統治によって運営されていきます。従って、アストラゼネカグループは2012年8月9日より、提携から生じる売上の50%の1億2,800万ドルを計上し、営業費用の50%の3,600万ドルと償却費を除くその他費用の50%にあたる1億3,300万ドルを損益計算書に計上します。この取り決めに基づき、1億6,500万ドルがブリストル・マイヤーズ スクイブに対して支払われ、2012年12月31日付けで買掛金およびその他の債務として計上されました。

アストラゼネカのブリストル・マイヤーズ スクイブとの提携における同社への支払いは、主に提携製品に関する33億5,800万ドルの無形資産により発生するものです。製品には米国とヨーロッパで承認されているBYETTA®（エキセナチド）注射剤およびBYDUREON®（エキセナチド）、米国で承認されているSYMLIN®（プラムリンチド酢酸塩）注射剤、希少な遺伝的または後天的リポジストロフィー患者における糖尿病や高トリグリセリド血症の治療薬として米国食品医薬品局（FDA）で審査中のレプチンアナログであるmetreleptinがあります。また、提携製品にかかる費用として、4億ドルが事前に支払われました。

6 メルク社との契約の会計への影響

1982年、アストラ AB社は、米国でのアストラ社製品の営業、販売、流通を目的として、メルク社（シェリング・プラウ社との合併によって新生メルク社の子会社となったMerck Sharp & Dohme社）（以下「メルク社」と称する）との合弁企業を設立しました。1998年、この合弁企業は再編されました（以下「事業再編」と称する）。事業再編に関連する契約（以下「契約」と称する）に基づき、メルク社を有限責任組合員、アストラゼネカを無限責任組合員とする米国限定の提携（以下「提携」と称する）が組織され、アストラゼネカは特定の有限責任組合員とメルク社およびその関連会社が保有するその他の権利の制約下で合併事業を獲得しました。これらの権利により、メルク社に提携の業務に対するセーフガードがもたらされ、アストラゼネカの営業活動の自由が制限されます。契約では、以下が部分的に規定されます。

- 年間の偶発的対価の支払い
- メルク社がアストラゼネカの製品と業務（必須も任意も含む）の持ち分を譲渡するための解除の取り決め

詳細は、2011年度アニュアルレポートおよび米国証券取引委員会（SEC）への提出書類20-Fに示されています。

2008年度のメルク社への支払い

以前に開示した通り、2008年3月17日、アストラゼネカは、一部引き取り、調整、受取手形に関連して約26億ドルの正味現金払いを行いました。この支払いにより、アストラゼネカは、特定のアストラゼネカ製品（パルミコート、Rhinocort、シムビコート、Toprol-XLを含む）におけるメルク社の持分を取得し、これらの製品に関するアストラゼネカの偶発的対価の支払いを中止し、呼吸器治療領域における前述の製品やその他製品の展開の機会を得ました。その時点で、第1オプションと第2オプション（以下を参照）に関連する将来的な製品の権利に対する支払いに相当する正味支払いの残高（16億5,600万ドル）と共に、9億9,400万ドルの無形資産が認識されました。これらの「払い戻し不可の保証金」は、無形資産として分類されました。

第1オプション

以前に開示した通り、2010年2月26日、アストラゼネカは第1オプションを行使しました。2010年4月30日、メルク社に6億4,700万ドルが支払われました。この支払いにより、アストラゼネカは、第1オプションに含まれる製品（Entocort、Atacand、Plendilなど）、フェロジピンの自社後発品、および当時開発中であった製品（主にBrillintaとlesogaberan）に対するメルク社の持分を取得しました。2010年4月30日、この日以降の期間に関して、これらの製品に対する偶発的対価の支払いが中止され、アストラゼネカは、これらの製品と呼吸器およびニューロサイエンス治療領域のその他の機会を利用できるようになりました。これらの権利は18億2,900万ドルと見積もられ、2010年2月26日から無形資産として認識されています（メルク社への6億4,700万ドルの支払いを補填するため、払い戻し不可の保証金から11億8,200万ドルが移転されました）。残り4億7,400万ドルの払い戻し不可の保証金は、アストラゼネカが第2オプションを行使した時点で確保される利益に関連するものです。

第2オプション

2012年6月26日、アストラゼネカとメルク社は、第2オプションに関して、特定の契約条項を修正することで合意しました。アストラゼネカはこの修正によって、第2オプションの評価額の精度が向上し、以前の取り決めよりも有利になると考えており、予期せぬ状況が発生しなければ、2014年に第2オプションを行使する予定です。

この修正の最も重要な部分は、アストラゼネカが第2オプションを行使する時期が変更され、オプション行使価格の構成要素の一部を設定するための評価方法に関して合意が得られたことです。修正された契約に基づき、メルク社は、2014年3月1日～2014年4月30日に行使可能で、2014年6月30日に決済する新しい第2オプションをアストラゼネカに付与しました。アストラゼネカは、2017年に行使可能なオプション、または年間合計売上が最低金額を下回った場合に行使できるオプションを引き続き保有しています。

第2オプションの時期が変更されたことに加え、アストラゼネカとメルク社は、2014年のオプション行使価格の構成要素の一部を設定するための評価方法について合意に達しました。第三者による評価の代わりに、アストラゼネカとメルク社によるネキシウムとPrilosec（オメプラール）の売上予測の共通見解に基づき、2014年の行使の評価額は合計3億2,700万ドルに固定されています。2014年6月30日に支払いが合意されている金額は、現時点の共通の予測ではなく、2014年末から2018年6月までの期間の実際の売上へと2018年に調整される予定です。

さらに、第2オプションの行使価格には、行使までの3年間におけるメルク社の平均1%の提携における年間利益配分の10倍に相当する金額も含まれます。アストラゼネカは、この金額を約8,000万ドルと予想しています。

まだ達成されていない年間売上閾（しきい）値とオプションを行使する時期によって正確な金額が決まる Vimovo の将来の米国売上の最大5%に相当する正味現在価値は、引き続き第2オプションの行使価格を構成します。

修正に基づき、アストラゼネカが2014年に行使した場合、ネキシウムと Prilosec（オメプラール）を製造するメルク社の既存の権利は決済の時点で失効します。

修正に関連してメルク社は、ネキシウムに関して特定の営業活動を行うことができる柔軟性をアストラゼネカに認めました。

予期せぬ状況が発生しなければ、アストラゼネカは2014年に第2オプションを行使する予定で、第2オプションの価格は有利であり、アストラゼネカが2014年に行使するための経済的な動機が生じるという経営陣の見解によって裏付けられています。そのため、アストラゼネカは、行使日を2012年6月26日（契約の修正日）として第2オプションを反映させる会計処理を適用しています。その結果、メルク社に対し約15億ドルの負債が生じ（うち11億ドルを2012年7月1日～2014年6月30日に毎月の偶発対価によって支払い、残りを2014年6月30日に一括で支払う）、その日から無形資産が相応して増加します。

これらの無形資産は、第1オプションから繰り越された4億7,400万ドルに追加され、全体として、消化器領域での開発機会を利用する権利の価値と偶発的対価からの救済を反映します。

2012年6月26日から無形資産の償却が開始されました。これにより、2012年第3四半期と第4四半期の営業利益は上昇するものの、年間約1億4,000万ドルの追加費用が販売・一般管理費に計上され、売上原価とその他収入に含められる償却費と合わせると、置き換えられる偶発的対価に概ね相当する金額になります。

アストラゼネカは、現在、中核財務指標の計算から販売・一般管理費に発生する償却費のみを除外するため、2012年の中核財務指標に生じる影響は限定的です。2013年第1四半期から使用される中核財務指標の定義へのグループの変更に関する最新情報は、8ページをご覧ください。この変更により、今後、メルク社の償却費は中核財務指標から除外されます。アストラゼネカは、変更後の定義により除外された償却費は、2012年度の3億5,000万ドルに対し、2013年度は約5億5,000万ドルになると予想しています。

取得した製品の権利に関連する無形資産は、減損の査定を受け、製品を撤退させるか、または影響を受ける治療領域の業務が大幅に削減された場合には、部分的または全面的に減損されます。

7 法的手続きと偶発債務

アストラゼネカは、製造物責任、商事紛争、知的財産権の侵害、特定特許の有効性、反トラスト法、営業・販売活動に関連する訴訟や調査など、業務上一般的と見なされるさまざまな法的手続きに関与しています。以下の項目は、当社の2011年度アニュアルレポートおよび米国証券取引委員会（SEC）への提出書類 20-F における法的手続きの開示と2012年6月30日までの上半期財務報告書に含まれる2012年度中間経営報告書、ならびに2012年第3四半期と9ヵ月累積業績（合わせて「開示」）以降の重要な進展です。以下または開示で特に指摘されていない申し立てに関しては、引当金を設定していません。

2011年度アニュアルレポートおよび米国証券取引委員会（SEC）への提出書類 20-F で説明している通り、アストラゼネカが関係する申し立ての大部分では、手続きの最終的解決によって生じる財務的影響を妥当に見積もることはできません。これらの訴訟では、アストラゼネカは、訴訟の性質と事実に関する情報のみを開示し、引当金は設定しません。

訴訟が解決または裁定されるか、定量化できる罰金や処罰が決定されて上訴が行われぬか、予想される損害を妥当に見積もることができる場合は、損失を記録するか、引当金を設定して予想される損害をできる限り見積もります。

状況に応じて立場が変わるため、これらの引当金を計算する際に使用した見積もりは本質的に不正確です。したがって、法的手続きの結果によって生じる損害が計上された引当金を超えないという保証はありません。このような不確実性の原因となる主な要素については、2011年度アニュアルレポートおよび米国証券取引委員会（SEC）への提出書類 20-F および本書で詳細に説明しています。

アストラゼネカは、知的財産権を全面的に信頼し、積極的に防衛および強化しています。

2012年第4四半期および2013年1月に関して開示された項目

特許/薬事訴訟

クレストール（ロスバスタチンカルシウム）

米国内での特許訴訟

2012年12月、米国連邦巡回控訴裁判所は、クレストール（ロスバスタチンカルシウム）を保護する物質特許が有効であり法的強制力を有するとしてデラウェア地区地方裁判所が以前に開示した裁定を支持しました。連邦巡回裁判所は、Apotex Corp.（以下「Apotex社」と称する）が提出者として法的責任を負い、地方裁判所の裁定に拘束されることも判決しました。2013年1月、Aurobindo Pharma Limited、Teva Pharmaceuticals USA, Inc.、Mylan Pharmaceuticals

Inc.、Sun Pharmaceutical Industries, LTD.の被告各社ならびに、それらとは別に Apotex 社は、連邦巡回裁判所の裁定を再審理し、本来の裁判所で再審理するよう申し立てを行いました。

以前に開示したとおり、アストラゼネカは、ロスバスタチン垂鉛錠のセクション 505(b)(2)による新薬承認申請がクレステロール錠の物質特許を侵害しているとして争っているデラウェア地区地方裁判所の特許訴訟に関与しています。2012年11月、同裁判所は、被告の Watson Laboratories, Inc. (以下「Watson 社」と称する)が無効の抗弁から除外されることを裁決しました。2012年12月、EGIS Pharmaceuticals PLC は、クレステロールの物質特許の有効性と強制力を認め、Watson 社に対する判決に拘束されることに合意するという条件で、訴訟を取り下げました。2012年12月、唯一の残存する侵害の争点について審理が行われました。同裁判所は、両当事者の審理後の趣意書が提出された後、判決を下す予定です。

米国外での特許訴訟

以前に開示したとおり、アストラゼネカは、オーストラリアでの後発品メーカー各社に対する特許訴訟に関与していません。2012年10月に公判が開かれ、判決を待っている状況です。

ネキシウム (エソメプラゾールマグネシウム)

米国内での特許訴訟

2011年に開示したとおり、アストラゼネカは、Hanmi USA Inc.ほか (以下「Hanmi 社」と称する)がエソメプラゾールストロンチウム 20 mg および 40 mg カプセルの FDA 販売承認を取得するためのセクション 505(b)(2)に基づく新薬承認申請を申請したことに対して、ニュージャージー地区地方裁判所で Hanmi 社を相手取って特許侵害訴訟を開始しました。2012年、同裁判所は、クレーム解釈を発行しました。アストラゼネカは、再審理を要求しています。

米国外での特許訴訟

以前に開示したとおり、2011年6月および7月、欧州特許局 (EPO) の異議部は、EP 1020461 ('461 特許) (ネキシウムに関連する) および EP 1020460 ('460 特許) (ネキシウム i.v.に関連する) を取り消しました。アストラゼネカは、異議部の決定に抗議しました。2012年11月、独立した EPO 技術審判部は、アストラゼネカの抗議を認め、'461 特許と '460 特許の両方を維持しました。

パルミコートレスピュール (ブデソニド吸入用懸濁液)

米国内での特許訴訟

アストラゼネカが後発品メーカー各社を相手取り、パルミコートレスピュールの使用法、剤形、および有効成分を対象とする米国特許の侵害を巡って提起した一連の特許侵害訴訟は、2012年11月7日にニュージャージー地区地方裁判所で開始されました。2013年2月8日に最終弁論が予定されており、アストラゼネカでは、その後すぐに判決が下されると予想しています。

セロクエル (クエチアピソニウム) およびセロクエル XR (クエチアピソニウム)

米国内での特許訴訟

以前に開示したとおり、2012年7月、アストラゼネカは、Amneal Pharmaceuticals, LLC (以下「Amneal 社」と称する) から、セロクエル XR に関するパラグラフ IV 通知書を受け取りました。2012年8月、アストラゼネカは、ニュージャージー地区地方裁判所で Amneal 社および Amneal 社の関連事業体に対する特許侵害訴訟を開始しました。2013年1月、アストラゼネカは、特定の環境で 2016年11月1日をもってセロクエル XR 製品特許のライセンスを付与することにより、Amneal 社に対する特許侵害訴訟を和解しました。

以前に開示したとおり、2012年9月、アストラゼネカは、Lupin Ltd.から、セロクエル XR に関するパラグラフ IV 通知書を受け取りました。2012年11月、アストラゼネカは、ニュージャージー地区地方裁判所で Lupin Ltd.に対する特許侵害訴訟を開始しました。

米国外での特許訴訟

2012年11月、ドイツ連邦特許裁判所は、セロクエル XR の特許が無効であると判断しました。

アストラゼネカは、セロクエル XR を保護する特許を確信しており、今後も適切な法的措置を講じる予定ですが、それにもかかわらず、このような後発品の発売がオーストラリア、イタリア、ポルトガル、ルーマニアなどで起こり、裁判所により当社に不利な決定が下される可能性もあります。

Vimovo (ナプロキセン/エソメプラゾールマグネシウム)

米国内での特許訴訟

2013年1月、アストラゼネカと POZEN Inc. (以下「Pozen 社」と称する) は、Pozen 社からのライセンスを含むオレンジブックに記載された 7 件の特許への ANDA 申し立てに対して、ニュージャージー地区地方裁判所で特許侵害訴訟を開始しました。ニュージャージー地区地方裁判所では、Vimovo の後発品に関して、他に 3 件の特許侵害訴訟が係争中です。

製造物責任訴訟

ネキシウム (エソメプラゾールマグネシウム)

以前に開示したとおり、アストラゼネカは、米国各地の連邦および州裁判所でネキシウムおよび/または Prilosec (オメプラール) による、骨の老化、骨密度低下、および/または骨折を申し立てる原告によって製造物責任訴訟の被告に指名されました。現在の原告は約 1,900 人です。2012年12月、米国広域係属訴訟司法委員会は、連邦裁判所管轄事件の手続きをカリフォルニア中央地区連邦地方裁判所で調整するよう命じました。

セロクエル（クエチアピソール酸塩）

以前に開示したとおり、カナダ・ケベック州で、アストラゼネカがセロクエルと特定の健康リスクとの関連性について十分な警告を行っていないとする推定の集団訴訟が開始されました。2012年12月12日、ケベック州控訴裁判所は、集団訴訟の認定を却下する下級裁判所の決定を取り下げるという原告の申し立てを認めました。

商事訴訟

平均卸売価格（AWP）に関する訴訟

以前に開示した通り、2009年の裁判に続き、ケンタッキー州の陪審員は、ケンタッキー州消費者保護およびメディケイド違反条例に基づきアストラゼネカの責任を認め、アストラゼネカに対し1,472万ドルの補償的損害賠償と100ドルの懲罰的損害賠償を請求する裁定を下しました。裁判では、さらに540億ドルが法定罰金として追加されました。2012年10月12日、ケンタッキー州控訴裁判所は、第一審裁判所の判決を一転し、アストラゼネカには賠償金を支払う責任はないとしました。控訴裁判所は、判決登録のため訴訟を第一審裁判所に差し戻す、アストラゼネカの主張を支持する判決を下しました。2012年11月13日、ケンタッキー州は、裁量上訴（上告）の申し立てをケンタッキー州最高裁判所に提起しました。アストラゼネカとメディミュン社は、オクラホマ州と和解に達し、引当金が計上されました。この和解によってメディミュン社のAWP訴訟事例が終了し、アストラゼネカには3件のAWP訴訟事例が残存しています。

クレストール（ロスバスタチンカルシウム）

2012年11月29日、イスラエルのテルアビブヤッファ地方裁判所において、アストラゼネカおよびその他の製薬企業4社を相手取り、集団訴訟および関連する請求の原因に関する陳述として認定する申し立てが提出されました。アストラゼネカに関しては、他の訴因に加え、請求の原因に関する陳述では、アストラゼネカが詐欺に荷担しており、薬剤に伴う特定の有害事象に関して、クレストールの消費者に重要事実を開示していないと申し立てがありました。

医薬品の輸入と反トラスト法

以前に開示した通り、2004年8月、Californian retail pharmacyの原告団は、カリフォルニア州上級司法裁判所に、アストラゼネカおよびその他の製薬企業に対し、カリフォルニア州で販売されている医薬品の価格を、カナダでの販売価格と同等あるいは上回る価格に設定し、米国への医薬品輸入を制限する画策を行っているとして申し立てる訴訟を提起しました。裁判所が被告側の略式判決請求を認め、その決定が上告で追認された後、2012年10月、原告団はカリフォルニア州最高裁判所による再審理を申し立てましたが、これは却下されました。

ネキシウムの和解に関する反トラスト法訴訟

以前に開示したとおり、アストラゼネカは、アストラゼネカのネキシウムに関する特許訴訟和解が米国の反トラスト法および多くの州法に違反すると申し立てる多数の類似した推定集団訴訟の被告となっています。2012年12月、米国広域係属訴訟司法委員会は、連邦裁判所管轄事件の手続きをマサチューセッツ地区連邦地方裁判所で調整するよう命じました。

セロクエル（クエチアピソール酸塩）

2012年12月、アストラゼネカは、セロクエルのマーケティングおよび販売促進活動でアストラゼネカが行ったとされる虚偽のおよび/または誤解を招く表現に関するケンタッキー州検事総長の申し立てについて、和解することに大筋で合意しました。最終的な和解合意は2013年1月に実施されました。引当金は、第4四半期に計上されています。

政府による調査/訴訟

Losec/Prilosec（オメプラゾール）

欧州委員会の訴訟

2012年12月、EU司法裁判所は、オメプラゾールの支配的地位の濫用を巡り、アストラゼネカに6,000万ユーロ（一般裁判所により5,250万ユーロに減額）の罰金を科す欧州委員会の2005年決定に関して、一般裁判所からのEU判決の交差上訴に裁定を下しました。司法裁判所は、すべての交差上訴を棄却し、すべての重要な事項について一般裁判所の判決を確認しました。これ以上の上告は不可能です。

ネキシウム（エソメプラゾールマグネシウム）

司法省/テキサス州検事総長による調査

司法省は、連邦裁判所管轄の事件への不介入通知を提出しました。テキサス州検事総長は、テキサス州裁判所で係争中の虚偽請求取締法にかかわる事件に対して、同様の通知を提出する予定であると述べました。アストラゼネカと告発者の弁護士は、現在、取り下げの条件を交渉しています。アストラゼネカは、これらの案件がまもなく正式に取り下げられるものと予想しています。

Medcoの刑事的民事訴訟（Schumann）

以前に開示したとおり、虚偽の価格情報を通知することによる連邦政府および州政府の過払いと、Prilosecとネキシウムの処方状況に影響を及ぼすことを目的とした不正な支払いがあったとして、連邦および一部の州の虚偽請求取締法の刑事的民事訴訟（内部告発者）条項に基づき、アストラゼネカは、フィラデルフィア連邦裁判所に提起された訴訟の被告に指名されました。この訴訟は2003年に提起されましたが、事件に介入しないという米国政府の決定を受け、アストラゼネカに修正した訴状の写しが提供された2009年7月まで秘匿されていました。2013年1月25日、裁判所は、アストラゼネカの申し立てを認め、請求を棄却しました。

8 通年の製品売上に関する分析

	全世界			US			西ヨーロッパ			ROWの既成市場			ROWの新興市場		
	2012年 100万ドル	前年同期比 %	CER %	2012年 100万ドル	前年同期比 %	2012年 100万ドル	前年同期比 %	CER %	2012年 100万ドル	前年同期比 %	CER %	2012年 100万ドル	前年同期比 %	CER %	
消化器															
ネキシウム	3,944	(11)	(10)	2,272	(5)	417	(45)	(41)	476	(12)	(11)	779	7	11	
Losec/Prilosec (オメプラール)	710	(25)	(24)	30	(21)	188	(22)	(17)	316	(29)	(29)	176	(20)	(20)	
その他	198	24	25	145	44	38	(17)	(11)	6	-	-	9	29	29	
消化器合計	4,852	(12)	(11)	2,447	(4)	643	(39)	(34)	798	(20)	(19)	964	1	4	
循環器															
クレストール	6,253	(6)	(4)	3,164	3	1,156	(6)	2	1,269	(24)	(23)	664	-	4	
Atacand	1,009	(30)	(27)	150	(18)	422	(42)	(39)	142	(33)	(33)	295	(9)	(3)	
セロケン/Toprol-XL	918	(7)	(4)	320	(21)	70	(18)	(12)	30	(21)	(21)	498	8	13	
テノミン	229	(15)	(13)	10	(9)	50	(15)	(8)	106	(15)	(15)	63	(16)	(12)	
スプレンジール/Plendil	252	(2)	(2)	4	(50)	18	(22)	(17)	12	(14)	(14)	218	3	2	
Onglyza	323	53	53	237	52	47	38	38	13	86	86	26	86	86	
Brilinta/Brilique	89	324	348	19	73	55	n/m	n/m	3	n/m	n/m	12	n/m	n/m	
Byetta	74	n/m	n/m	74	n/m	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Bydureon	37	n/m	n/m	37	n/m	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	347	(12)	(8)	25	150	157	(17)	(12)	32	(15)	(15)	133	(15)	(12)	
循環器合計	9,531	(7)	(4)	4,040	5	1,975	(16)	(10)	1,607	(23)	(23)	1,909	-	4	
呼吸器															
シムビコート	3,194	1	5	1,003	19	1,313	(8)	(3)	443	6	7	435	(3)	3	
パルミコート	866	(3)	(1)	233	(16)	156	(17)	(12)	127	1	1	350	17	19	
Rhinocort	177	(17)	(14)	55	(26)	28	(24)	(19)	17	(15)	(15)	77	(5)	(1)	
その他	178	(17)	(14)	10	25	92	(16)	(11)	23	4	4	53	(30)	(28)	
呼吸器合計	4,415	(1)	2	1,301	8	1,589	(10)	(5)	610	4	5	915	1	5	
オンコロジー															
ゾラデックス	1,093	(7)	(5)	24	(38)	221	(16)	(12)	448	(9)	(9)	400	4	9	
アリミデックス	543	(28)	(26)	21	(50)	124	(52)	(49)	279	(9)	(9)	119	(18)	(16)	
イレッサ	611	10	12	-	(100)	142	12	20	222	9	9	247	12	12	
カソデックス	454	(17)	(16)	(3)	n/m	51	(36)	(31)	301	(17)	(17)	105	(6)	(4)	
フェソロデックス	654	20	24	310	17	186	(4)	4	62	n/m	n/m	96	16	27	
その他	134	13	15	25	108	17	31	46	63	-	-	29	(6)	(3)	
オンコロジー合計	3,489	(6)	(3)	377	7	741	(21)	(15)	1,375	(4)	(4)	996	2	6	
ニューロサイエンス															
セロクエル IR	1,294	(70)	(70)	697	(79)	226	(59)	(56)	202	(11)	(12)	169	(23)	(20)	
セロクエル XR	1,509	1	4	811	4	446	(9)	(2)	97	9	10	155	17	27	
局所麻酔	540	(10)	(7)	-	(100)	201	(17)	(11)	206	-	-	133	(8)	(4)	
ゾーミッド	182	(56)	(54)	12	(92)	103	(41)	(37)	55	(19)	(19)	12	(8)	8	
ディプリバン	291	(1)	2	-	(100)	32	(24)	(19)	78	(6)	(6)	181	15	19	
Vimovo	65	91	97	25	19	19	217	233	14	133	133	7	n/m	n/m	
その他	42	30	36	16	n/m	11	(35)	(29)	1	(33)	(33)	14	17	25	
ニューロサイエンス合計	3,923	(46)	(44)	1,561	(64)	1,038	(32)	(27)	653	(4)	(4)	671	(1)	4	
感染症・その他															
Synagis	1,038	6	6	611	7	427	5	5	-	-	-	-	-	-	
Merrem	396	(32)	(29)	38	(7)	64	(64)	(62)	18	(66)	(66)	276	(11)	(6)	
FluMist	181	12	12	174	9	3	n/m	n/m	3	n/m	n/m	1	-	-	
その他	100	(31)	(28)	58	(25)	6	(33)	(11)	16	(20)	(20)	20	(35)	(32)	
感染症・その他合計	1,715	(8)	(7)	881	4	500	(16)	(15)	37	(49)	(49)	297	(13)	(8)	
Aptium Oncology	48	(79)	(79)	48	(79)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アストラテック	-	(100)	(100)	-	(100)	-	(100)	(100)	-	(100)	(100)	-	(100)	(100)	
合計	27,973	(17)	(15)	10,655	(21)	6,486	(24)	(19)	5,080	(14)	(14)	5,752	-	4	

9 第4四半期の製品売上に関する分析

	全世界			US			西ヨーロッパ			ROWの既成市場			ROWの新興市場		
	2012年第4四半期100万ドル	前年同期比 %	CER %	2012年第4四半期100万ドル	前年同期比 %	CER %	2012年第4四半期100万ドル	前年同期比 %	CER %	2012年第4四半期100万ドル	前年同期比 %	CER %	2012年第4四半期100万ドル	前年同期比 %	CER %
消化器															
ネキシウム	1,047	(2)	(1)	597	(3)	(34)	92	(37)	(34)	147	11	11	211	20	20
Losec/Prilosec (オメプラール)	156	(37)	(36)	5	(38)	(42)	32	(44)	(42)	77	(42)	(40)	42	(18)	(18)
その他	52	8	8	37	9	-	10	(9)	-	1	-	-	4	33	-
消化器合計	1,255	(8)	(7)	639	(3)	(34)	134	(37)	(34)	225	(15)	(14)	257	12	12
循環器															
クレストール	1,622	(8)	(7)	862	2	(1)	287	(6)	(1)	303	(35)	(34)	170	8	7
Atacand	202	(42)	(41)	32	(26)	(64)	63	(66)	(64)	33	(18)	(18)	74	(8)	(8)
セロケン/Toprol-XL	256	8	10	98	10	(9)	19	(14)	(9)	7	(30)	(30)	132	15	17
テノミン	56	(18)	(16)	2	-	(7)	12	(14)	(7)	29	(15)	(12)	13	(28)	(33)
スプレンジール/Plendil	63	5	5	-	(100)	(20)	4	(20)	(20)	3	(25)	(25)	56	12	12
Onglyza	88	24	24	63	19	40	14	40	40	4	33	33	7	40	40
Brilinta/Brilique	38	n/m	n/m	9	n/m	n/m	22	n/m	n/m	2	n/m	n/m	5	n/m	n/m
Byetta	47	n/m	n/m	47	n/m	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Bydureon	26	n/m	n/m	26	n/m	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	94	(2)	(1)	13	n/m	(9)	40	(11)	(9)	9	11	11	32	(22)	(22)
循環器合計	2,492	(6)	(5)	1,152	12	(18)	461	(22)	(18)	390	(31)	(30)	489	5	5
呼吸器															
シムビコート	891	6	8	273	13	(1)	346	(4)	(1)	149	21	23	123	7	8
パルミコート	242	9	9	56	(8)	(11)	40	(13)	(11)	39	(3)	(3)	107	41	41
Rhinocort	49	(2)	-	15	(6)	(13)	7	(13)	(13)	5	-	-	22	5	10
その他	45	(15)	(15)	3	50	(12)	23	(12)	(12)	7	100	100	12	(45)	(45)
呼吸器合計	1,227	5	7	347	8	(3)	416	(5)	(3)	200	17	18	264	13	14
オンコロジー															
ゾラデックス	271	(9)	(7)	5	(38)	(13)	54	(14)	(13)	120	(12)	(9)	92	2	2
アリミデックス	122	(27)	(25)	4	(20)	(44)	24	(47)	(44)	70	(17)	(13)	24	(25)	(28)
イレッサ	160	7	10	-	-	15	37	9	15	64	7	10	59	7	7
カソデックス	112	(21)	(19)	-	n/m	(29)	11	(35)	(29)	77	(25)	(21)	24	(14)	(21)
フェソロデックス	175	17	20	83	15	-	49	(4)	-	20	300	320	23	10	14
その他	36	6	11	6	50	50	5	25	50	17	-	6	8	(11)	(11)
オンコロジー合計	876	(7)	(4)	98	17	(12)	180	(16)	(12)	368	(9)	(5)	230	(2)	(3)
ニューロサイエンス															
セロクエル IR	94	(92)	(92)	(12)	n/m	(77)	29	(77)	(77)	40	(37)	(37)	37	(21)	(19)
セロクエル XR	382	(4)	(3)	213	-	(16)	103	(19)	(16)	27	17	17	39	15	18
局所麻酔	140	(5)	(4)	-	-	(11)	49	(14)	(11)	55	2	2	36	(3)	(3)
ゾーミッグ	39	(61)	(60)	2	(95)	(56)	19	(56)	(56)	15	(6)	(6)	3	200	300
ディブリバン	73	9	10	-	-	(22)	7	(22)	(22)	19	(5)	(5)	47	24	26
Vimovo	18	29	29	6	(14)	50	6	50	50	5	150	150	1	-	-
その他	12	86	86	5	n/m	-	3	-	-	-	-	-	4	33	33
ニューロサイエンス合計	758	(60)	(59)	214	(82)	(40)	216	(42)	(40)	161	(9)	(9)	167	4	6
感染症・その他															
Synagis	503	22	22	303	16	33	200	33	33	-	-	-	-	-	-
Merrem	106	(7)	(5)	19	138	(50)	14	(50)	(50)	2	(71)	(71)	71	-	3
FluMist	32	(6)	(6)	29	(12)	n/m	1	n/m	n/m	1	n/m	n/m	1	-	-
その他	30	(31)	(25)	19	(5)	200	2	100	200	-	(100)	(100)	9	-	44
感染症・その他合計	671	12	13	370	15	22	217	21	22	3	(77)	(77)	81	-	7
Aptium Oncology	3	(95)	(95)	3	(95)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アストラテック	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	7,282	(16)	(15)	2,823	(23)	(16)	1,624	(19)	(16)	1,347	(16)	(14)	1,488	6	6

主要な財務情報の便宜的換算

12月31日までの第4四半期	2012年 100万ドル	2011年 100万ドル	2012年 100万ポンド	2011年 100万ポンド	2012年 100万クローナ	2011年 100万クローナ
売上高	7,282	8,656	4,503	5,353	47,461	56,416
報告ベース						
営業利益	1,964	2,167	1,215	1,340	12,801	14,124
税引前利益	1,854	2,052	1,147	1,269	12,084	13,374
1株当たり利益	\$1.22	\$1.16	£0.75	£0.72	SEK7.95	SEK7.56
中核						
営業利益	2,532	2,990	1,566	1,849	16,503	19,488
税引前利益	2,422	2,875	1,498	1,778	15,786	18,738
1株当たり利益	\$1.56	\$1.61	£0.96	£1.00	SEK10.17	SEK10.49
12月31日までの通年	2012年 100万ドル	2011年 100万ドル	2012年 100万ポンド	2011年 100万ポンド	2012年 100万クローナ	2011年 100万クローナ
売上高	27,973	33,591	17,299	20,773	182,317	218,933
報告ベース						
営業利益	8,148	12,795	5,039	7,913	53,105	83,393
税引前利益	7,718	12,36	4,773	7,648	50,303	80,603
1株当たり利益	\$4.99	\$7.33	£3.09	£4.53	SEK32.52	SEK47.77
中核						
営業利益	10,430	13,167	6,450	8,143	67,979	85,817
税引前利益	10,000	12,739	6,184	7,878	65,176	83,028
1株当たり利益	\$6.41	\$7.28	£3.96	£4.50	SEK41.78	SEK47.45
普通株式1株当たりの配当	\$2.80	\$2.80	£1.79	£1.76	SEK18.34	SEK18.54
営業活動による 正味キャッシュフロー	6,948	7,821	4,297	4,837	45,284	50,974
現金および現金同等物の 増加(減少)額	166	(3,522)	103	(2,178)	1,082	(22,955)
所有者に帰属する資本金 および準備金	23,737	23,246	14,679	14,376	154,708	151,508

スターリング・ポンド(£)とスウェーデン・クローナへは便宜を図る目的で換算されており、それぞれ当期末時点での為替レート\$1=£0.6184、\$1=SEK6.5176で計算されています。普通株式1株当たりの配当は、配当宣言日のレートから算出した、実際の配当金として記載しています。

株主情報

発表および総会

2013年 第1 四半期業績発表	2013年 4月 25日
年次総会	2013年 4月 25日
2013年 第2 四半期・上半期業績発表	2013年 8月 1日
2013年 第3 四半期・9カ月累計業績発表	2013年 10月 31日

配当金

2012年 9月 10日に支払われた第1回中間配当の基準日は2012年 8月 10日でした。株式は、2012年 8月 8日から配当落ちとして取引されました。

2013年 3月 18日に支払われる2012年度第2回中間配当の基準日は、2013年 2月 15日になる見込みです。株式は、2013年 2月 13日から配当落ちとして取引されます。

今後の配当金は、通常、以下の予定により支払われます。

第1回中間配当	7月に発表、9月に支払を実施。
第2回中間配当	1月に発表、3月に支払を実施。

商標

アストラゼネカグループおよびアストラゼネカ以外の他社の商標は、本文書中、斜体で表示しています。アストラゼネカのロゴ、シンボルはすべて、アストラゼネカグループの商標です。本文書におけるアストラゼネカ以外の他社の商標には、ブリistol・マイヤーズ スクイブ社の商標である *Onglyza*、*Forxiga*、*Komboglyze* や *Kombiglyze XR*、Amlylin Pharmaceuticals, LLC、AstraZeneca Pharmaceuticals LP の商標である *Byetta*、*Bydureon*、*Symlyn*、Forest Laboratories, Inc. の商標である *Zinforo* があります。

連絡先

株式登録および 名義書換事務所

Equiniti Limited
Aspect House
Spencer Road
Lancing
West Sussex
BN99 6DA
UK

電話（英国内通話料無料）：
0800 389 1580
電話（英国以外）：
+44 (0)121 415 7033

預託銀行

JP Morgan Chase & Co
PO Box 64504
St Paul
MN 55164-0504
US

電話（米国内通話料無料）：
888 697 8018
電話（米国以外）：
+1 (651) 453 2128

届出事務所

2 Kingdom Street
London
W2 6BD
UK

電話：+44 (0)20 7604 8000

スウェーデン証券集中保管 機関

Euroclear Sweden AB
PO Box 191
SE-101 23 Stockholm
Sweden

電話：+46 (0)8 402 9000

お問い合わせ先

報道機関お問い合わせ先：	Esra Erkal-Paler（ロンドン）	+44 20 7604 8030
	Vanessa Rhodes（ロンドン）	+44 20 7604 8037
	Tony Jewell（ウィルミントン）	+1 302 885 4594
	Ann-Leena Mikiver（セーデルテリエ）	+46 8 553 260 20/+46 707428836

アナリスト/投資家向け情報：	James Ward-Lilley（ロンドン）	+44 20 7604 8122
	Karl Hård（ロンドン）	+44 20 7604 8123
	Nicklas Westerholm（ロンドン）	+44 20 7604 8124
	Ed Seage（米国）	+1 302 886 4065
	Colleen Proctor（米国）	+1 302 886 1842

将来予想に関する記述についての警告文

特に米国民事証券訴訟改革法（Private Securities Litigation Reform Act 1995）の「セーフハーバー」規定の適用を受けるため、当社は以下の警告文を発します：年次決算報告書には、グループの事業運営、業績および財政状態にかかわる将来予想に関する記述が一部記載されています。当社では予想は合理的な仮定に基づいていると考えていますが、将来予想に関する記述は、その性質上リスクや不確定要素を伴い、様々な要因の影響を受ける可能性があり、かかる要因によって実際の成果や結果は、予測と大幅に異なったものになる可能性があります。将来予想に関する記述は、年次決算報告書の作成日現在入手可能なデータや情報を反映しており、アストラゼネカがこうした将来予想に関する記述を更新する義務を負うものではありません。将来予想に関する記述の中で当社が使用している言葉として、「期待」「考え」「予想」「意図」などが挙げられますが、それと類似した表現も使用しています。実際の結果が将来予想に関する記述と大幅に異なったものになる重要な要因には、当社にとって不可抗力のものが含まれます。かかる要因として、特に次のことが挙げられます：特許権や独占販売権または商標の失効ないし満了、特許保護の取得に失敗するリスク、実質的な悪影響を及ぼす訴訟/政府の調査要求および不十分な保険の補償範囲に関するリスク、為替相場の変動、研究開発の結果商業的成功につながる新製品が開発されないリスク、戦略的提携が不成功に終わるリスク、競争・価格統制・価格下落による影響、課税のリスク、多額の製造物責任請求、サードパーティが材料やサービスを供給できない場合の影響、不適切な危機管理に伴うリスク、新製品の上市が遅れるリスク、製品に対する規制当局の承認を取得し維持することが困難な状況、規制当局の取り締まりに従わないことによるリスク、新製品が期待通りに機能しないリスク、環境に関する法的責任を被ることによるリスク、新興市場での事業活動に伴うリスク、評判にダメージを受けるリスク、製品が偽造されるリスク、生産性への取り組みと事業再構築プログラムを通じて計画したコスト削減措置を順調に実施できないリスク、規制当局によるパイオンミラーの承認プロセスが将来的な商業見通しに悪影響を及ぼすリスク、より厳格な贈賄禁止法および腐敗防止法の実施と執行の増加。